

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法	・構成の差異

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>目次</p> <ul style="list-style-type: none">1. 一般事項……………1.1 概要……………1.2 適用規格及び基準との適合性……………1.3 強度計算書の構成とその見方……………1.4 計算精度と数値の丸め方……………1.5 材料の表示方法……………2. クラス3容器の強度計算方法……………2.1 共通記号……………2.2 開放タンクの構造及び強度……………<ul style="list-style-type: none">2.2.1 開放タンクの胴の計算……………2.2.2 開放タンクの平板の厚さの計算……………2.2.3 開放タンクの底板の計算……………2.2.4 開放タンクの管台の計算……………2.2.5 開放タンクの胴の穴の補強計算…………… <p>別紙 クラス3容器の強度計算書のフォーマット</p>	<p>・構成の差異 （女川2号機では他の計算方法との記載の統一を図り「1.3 強度計算書の構成とその見方」を記載する。）</p> <p>・表現上の差異</p> <p>・構成の差異</p> <p>・評価対象設備の差異</p> <p>・適用規格の差異 （女川2号機はJIS B 8501に基づき評価が必要となる設備はないため記載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>1. 一般事項</p> <p>1.1 概要</p> <p>本資料は、添付書類「VI-3-1-4 クラス3機器の強度計算の基本方針」に基づき、クラス3容器が十分な強度を有することを確認するための方法を説明するものである。</p> <p>1.2 適用規格及び基準との適合性</p> <p>(1) 強度計算は、発電用原子力設備規格（設計・建設規格（2005年版（2007年追補版含む。））J S M E S N C 1 - 2005/2007）（日本機械学会 2007年9月）（以下「設計・建設規格」という。）により行う。</p> <p>また、消火設備用ポンベ及び消火器については、添付書類「VI-3-1-4 クラス3機器の強度計算の基本方針」に示すとおり、高圧ガス保安法又は消防法に適合したものを使用することとする。</p> <p>設計・建設規格各規格番号と強度計算書との対応は、表1-1に示すとおりである。</p> <p>(2) 強度計算書で計算するもの以外のフランジは、以下に掲げる規格（材料に関する部分を除く。）又は設計・建設規格 別表2に掲げるものを使用する。（設計・建設規格 PVC-3700, PVD-3010）</p> <p>a. J I S B 2 2 3 8 （1996）「鋼製管フランジ通則」</p> <p>b. J I S B 2 2 3 9 （1996）「鋳鉄製管フランジ通則」</p>	<p>・構成の差異</p> <p>・適用規格及び表現上の差異（女川2号機はJ I S B 8 5 0 1に基づき評価が必要となる設備はないため記載しない。）</p> <p>・構成及び表現上の差異</p> <p>・対象設備の差異（女川2号機はA S M E B 1 6 . 5は使用していないため記載しない。）</p> <p>・適用規格の差異（女川2号機のクラス3容器として、J I S B 8 5 0 1に基づき評価が必要となる設備はないため記載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>1.3 強度計算書の構成とその見方</p> <p>(1) 強度計算書は、本書と各容器の強度計算書からなる。</p> <p>(2) 各容器の強度計算書では、記号の説明及び計算式を省略しているため、本書によるものとする。</p>	<p>・構成の差異 （女川2号機では他の計算方法との記載の統一を図り「1.3 強度計算書の構成とその見方」を記載する。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																								
		<p>表 1-1 設計・建設規格各規格番号と強度計算書との対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1337 357 1608 411">設計・建設規格 規格番号</th> <th data-bbox="1612 357 1760 411">強度計算書の計算式 (章節番号)</th> <th data-bbox="1765 357 1933 411">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1337 414 1608 437">PVD-3000 クラス3容器の設計</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1337 469 1608 523">PVD-3010 (PVC-3920 準用)</td> <td data-bbox="1612 469 1760 523">2.2.1</td> <td data-bbox="1765 469 1933 523">開放タンクの胴の計算</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1337 526 1608 571">PVD-3310</td> <td data-bbox="1612 526 1760 571">2.2.2</td> <td data-bbox="1765 526 1933 571">開放タンクの平板の厚さの計算</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1337 574 1608 628">PVD-3010 PVC-3960, PVC-3970 準用</td> <td data-bbox="1612 574 1760 628">2.2.3</td> <td data-bbox="1765 574 1933 628">開放タンクの底板の計算</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1337 632 1608 676">PVD-3010 (PVC-3980 準用)</td> <td data-bbox="1612 632 1760 676">2.2.4</td> <td data-bbox="1765 632 1933 676">開放タンクの管台の計算</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1337 679 1608 734">PVD-3010 PVC-3160, PVC-3950 準用</td> <td data-bbox="1612 679 1760 734">2.2.5</td> <td data-bbox="1765 679 1933 734">開放タンクの胴の穴の補強計算</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1337 737 1608 759">PVD-3510</td> <td></td> <td data-bbox="1765 737 1933 759">開放タンクに穴を設ける場合の規定および補強不要となる穴の規定</td> </tr> </tbody> </table>	設計・建設規格 規格番号	強度計算書の計算式 (章節番号)	備考	PVD-3000 クラス3容器の設計			PVD-3010 (PVC-3920 準用)	2.2.1	開放タンクの胴の計算	PVD-3310	2.2.2	開放タンクの平板の厚さの計算	PVD-3010 PVC-3960, PVC-3970 準用	2.2.3	開放タンクの底板の計算	PVD-3010 (PVC-3980 準用)	2.2.4	開放タンクの管台の計算	PVD-3010 PVC-3160, PVC-3950 準用	2.2.5	開放タンクの胴の穴の補強計算	PVD-3510		開放タンクに穴を設ける場合の規定および補強不要となる穴の規定	<ul style="list-style-type: none"> ・適用規格及び表現上の差異（女川2号機のクラス3容器として、JIS B 8501に基づき評価が必要となる設備はないため記載しない。） ・評価対象設備の差異（女川2号機の開放タンクで平板の厚さの計算が必要となるため追加する。） ・記載の適正化（PVC-3960は開放タンクの底板の規定を明記した。） ・章節番号の差異 ・記載の適正化 ・評価対象設備の差異（女川2号機のクラス3容器として、2つ以上の穴が接近しているときの補強計算及びフランジの強度計算が必要となる設備はないため記載しない。） ・適用規格の差異（女川2号機のクラス3容器として、JIS B 8501に基づき評価が必要となる設備はないため記載しない。）
設計・建設規格 規格番号	強度計算書の計算式 (章節番号)	備考																									
PVD-3000 クラス3容器の設計																											
PVD-3010 (PVC-3920 準用)	2.2.1	開放タンクの胴の計算																									
PVD-3310	2.2.2	開放タンクの平板の厚さの計算																									
PVD-3010 PVC-3960, PVC-3970 準用	2.2.3	開放タンクの底板の計算																									
PVD-3010 (PVC-3980 準用)	2.2.4	開放タンクの管台の計算																									
PVD-3010 PVC-3160, PVC-3950 準用	2.2.5	開放タンクの胴の穴の補強計算																									
PVD-3510		開放タンクに穴を設ける場合の規定および補強不要となる穴の規定																									

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																																				
		<p>1.4 計算精度と数値の丸め方 計算の精度は、6桁以上を確保する。 表示する数値の丸め方は、表1-2に示すとおりとする。</p> <p>表1-2 表示する数値の丸め方</p> <table border="1"><thead><tr><th>数値の種類</th><th>単位</th><th>処理桁</th><th>処理方法</th><th>表示桁</th></tr></thead><tbody><tr><td>最高使用圧力 (開放タンク)</td><td>MPa</td><td>小数点以下第3位</td><td>四捨五入</td><td>小数点以下第2位</td></tr><tr><td>温度</td><td>℃</td><td>—</td><td>—</td><td>整数位</td></tr><tr><td>許容応力^{*1}</td><td>MPa</td><td>小数点以下第1位</td><td>切捨て</td><td>整数位</td></tr><tr><td>算出応力</td><td>MPa</td><td>小数点以下第1位</td><td>切上げ</td><td>整数位</td></tr><tr><td rowspan="6">長さ</td><td>下記以外の長さ</td><td>mm</td><td>四捨五入</td><td>小数点以下第2位</td></tr><tr><td>計算上必要な厚さ</td><td>mm</td><td>切上げ</td><td>小数点以下第2位</td></tr><tr><td>最小厚さ</td><td>mm</td><td>切捨て</td><td>小数点以下第2位</td></tr><tr><td>ボルト谷径</td><td>mm</td><td>—</td><td>—</td><td>小数点以下第3位</td></tr><tr><td>開放タンクの水頭 及び管台の内径</td><td>m</td><td>小数点以下第5位</td><td>四捨五入</td><td>小数点以下第4位</td></tr><tr><td>ガスケット厚さ</td><td>mm</td><td>—</td><td>—</td><td>小数点以下第1位</td></tr><tr><td>面積</td><td>mm²</td><td>有効数字5桁目</td><td>四捨五入</td><td>有効数字4桁</td></tr><tr><td>力</td><td>N</td><td>有効数字5桁目</td><td>四捨五入</td><td>有効数字4桁</td></tr><tr><td>比重</td><td>—</td><td>小数点以下第3位</td><td>四捨五入</td><td>小数点以下第2位</td></tr></tbody></table> <p>注記 *1:設計・建設規格 付録材料図表に記載された温度の中間における許容引張応力は、比例法により補間した値の小数点以下第1位を切り捨て、整数位までの値とする。ただし、許容引張応力が設計・建設規格 付録材料図表に定められた値のa倍である場合は次のようにして定める。 (1) 比例法により補間した値の小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位までの値をa倍する。 (2) (1)で得られた値の小数点以下第1位を切り捨て、整数位までの値とする。</p> <p>*2: 開放タンクの胴内径 *3: 絶対値が1,000以上のときは、べき数表示とする。</p>	数値の種類	単位	処理桁	処理方法	表示桁	最高使用圧力 (開放タンク)	MPa	小数点以下第3位	四捨五入	小数点以下第2位	温度	℃	—	—	整数位	許容応力 ^{*1}	MPa	小数点以下第1位	切捨て	整数位	算出応力	MPa	小数点以下第1位	切上げ	整数位	長さ	下記以外の長さ	mm	四捨五入	小数点以下第2位	計算上必要な厚さ	mm	切上げ	小数点以下第2位	最小厚さ	mm	切捨て	小数点以下第2位	ボルト谷径	mm	—	—	小数点以下第3位	開放タンクの水頭 及び管台の内径	m	小数点以下第5位	四捨五入	小数点以下第4位	ガスケット厚さ	mm	—	—	小数点以下第1位	面積	mm ²	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁	力	N	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁	比重	—	小数点以下第3位	四捨五入	小数点以下第2位	<p>・構成（章節番号）の差異</p> <p>・表現上の差異 (女川2号機では、クラス3容器として評価する開放タンクに係る種類のみ記載する。)</p> <p>・表現上の差異 (女川2号機では他の計算方法との記載の統一のため左記記載とする。)</p>
数値の種類	単位	処理桁	処理方法	表示桁																																																																			
最高使用圧力 (開放タンク)	MPa	小数点以下第3位	四捨五入	小数点以下第2位																																																																			
温度	℃	—	—	整数位																																																																			
許容応力 ^{*1}	MPa	小数点以下第1位	切捨て	整数位																																																																			
算出応力	MPa	小数点以下第1位	切上げ	整数位																																																																			
長さ	下記以外の長さ	mm	四捨五入	小数点以下第2位																																																																			
	計算上必要な厚さ	mm	切上げ	小数点以下第2位																																																																			
	最小厚さ	mm	切捨て	小数点以下第2位																																																																			
	ボルト谷径	mm	—	—	小数点以下第3位																																																																		
	開放タンクの水頭 及び管台の内径	m	小数点以下第5位	四捨五入	小数点以下第4位																																																																		
	ガスケット厚さ	mm	—	—	小数点以下第1位																																																																		
面積	mm ²	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁																																																																			
力	N	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁																																																																			
比重	—	小数点以下第3位	四捨五入	小数点以下第2位																																																																			

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考									
		<p>1.5 材料の表示方法</p> <p>材料は次に従い表示するものとする。</p> <p>(1) 設計・建設規格に定める材料記号を原則とする。</p> <p>設計・建設規格に記載されていないが設計・建設規格に相当材が記載されている場合は、次のように表示する。</p> <p>相当材記号相当(当該材記号)</p> <p>(例1) SM400A 相当 (SMA400AP)</p> <p>(例2) SCMV3-1 相当 (ASME SA387 Gr. 11Cl.1)</p> <p>(2) 管材の許容引張応力の値は継目無管、電気抵抗溶接管及び鍛接管等、製造方法により異なる場合があるため材料記号の後に“—”を入れ、その製法による記号を付記して表示する。</p> <p>(例) STPT410-S (継目無管の場合)</p> <p>(3) 強度区分により許容引張応力が異なる場合、材料記号の後に J I S で定める強度区分を付記して表示する。</p> <p>(例)</p> <table border="0"><thead><tr><th></th><th>設計・建設規格の表示</th><th>計算書の表示</th></tr></thead><tbody><tr><td>SCMV3</td><td>(付録材料図表 Part5 表 5 の許容引張応力の上段)</td><td>SCMV3-1</td></tr><tr><td>SCMV3</td><td>(付録材料図表 Part5 表 5 の許容引張応力の下段)</td><td>SCMV3-2</td></tr></tbody></table> <p>(4) 使用する厚さ又は径等によって許容引張応力の値が異なる場合、材料記号の後に該当する厚さ又は径等の範囲を付記して表示する。</p> <p>(例) S45C (直径 40mm 以下)</p> <p>(5) 熱処理によって許容引張応力の値が異なる場合、材料記号の後に J I S に定める熱処理記号を付記して表示する。</p> <p>(例) SUS630 H1075 (固溶化熱処理後 570～590℃空冷の場合)</p>		設計・建設規格の表示	計算書の表示	SCMV3	(付録材料図表 Part5 表 5 の許容引張応力の上段)	SCMV3-1	SCMV3	(付録材料図表 Part5 表 5 の許容引張応力の下段)	SCMV3-2	<p>・構成(章節番号)の差異</p> <p>・表現上の差異 (女川2号機では他の計算方法との記載の統一のため左記記載とする。)</p>
	設計・建設規格の表示	計算書の表示										
SCMV3	(付録材料図表 Part5 表 5 の許容引張応力の上段)	SCMV3-1										
SCMV3	(付録材料図表 Part5 表 5 の許容引張応力の下段)	SCMV3-2										

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>(6) ガasket材料で非石綿の場合の表示は以下とする。</p> <p>(例) 非石綿ジョイントシート</p> <p>渦巻形金属ガasket（非石綿）（ステンレス鋼）</p> <p>平形金属被覆ガasket（非石綿板）（ステンレス鋼）</p> <p>なお、この場合のガasket係数m及びガasketの最小設計締付圧力yは、JIS B 8265 附属書3 表2 備考3より、ガasketメーカー推奨値を適用する。</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																																												
		<p>2. クラス3容器の強度計算方法</p> <p>発電用原子力設備のうちクラス3容器の強度計算に用いる計算式と記号を以下に定める。</p> <p>2.1 共通記号</p> <p>クラス3容器の強度計算において、特定の計算に限定せず、一般的に使用する記号を共通記号として次に掲げる。</p> <p>なお、以下に示す記号のうち、各計算において説明しているものはそれに従う。</p> <table border="1" data-bbox="1330 550 1935 1193"> <thead> <tr> <th>設計・建設規格の記号</th> <th>計算書の表示</th> <th>表示内容</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P</td> <td>P</td> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td>η</td> <td>η</td> <td>継手の効率</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>設計・建設規格 PVD-3110 に規定している継手の種類に応じた効率を使用する。</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>継手の種類</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>継手無し</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>突合せ両側溶接</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>裏当金（取り除く。）を使用した突合せ片側溶接</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>裏当金を使用した突合せ片側溶接（溶接後裏当金を取り除いたものに限る。）並びにこれと同等以上の効果が得られる方法による溶接</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>裏当金（取り除かず。）を使用した突合せ片側溶接</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>裏当金を使用しない突合せ片側溶接</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>両側全厚すみ肉重ね溶接</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>プラグ溶接を行う片側全厚すみ肉重ね溶接</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>プラグ溶接を行わない片側全厚すみ肉重ね溶接</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>放射線検査の有無</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>有り</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>発電用原子力設備規格（溶接規格 J S M E S N B 1 - 2001）（日本機械学会 2001 年 2 月）N-3140 及び N-4140（N-1100（1）a 準用）の規定に準じて放射線透過試験を行い、同規格の規定に適合するもの</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>無し</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>その他のもの</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	設計・建設規格の記号	計算書の表示	表示内容	単位	P	P	最高使用圧力	MPa	η	η	継手の効率	—			設計・建設規格 PVD-3110 に規定している継手の種類に応じた効率を使用する。	—			継手の種類				継手無し	—			突合せ両側溶接	—			裏当金（取り除く。）を使用した突合せ片側溶接	—			裏当金を使用した突合せ片側溶接（溶接後裏当金を取り除いたものに限る。）並びにこれと同等以上の効果が得られる方法による溶接	—			裏当金（取り除かず。）を使用した突合せ片側溶接	—			裏当金を使用しない突合せ片側溶接	—			両側全厚すみ肉重ね溶接	—			プラグ溶接を行う片側全厚すみ肉重ね溶接	—			プラグ溶接を行わない片側全厚すみ肉重ね溶接	—			放射線検査の有無				有り	—			発電用原子力設備規格（溶接規格 J S M E S N B 1 - 2001）（日本機械学会 2001 年 2 月）N-3140 及び N-4140（N-1100（1）a 準用）の規定に準じて放射線透過試験を行い、同規格の規定に適合するもの	—			無し	—			その他のもの	—	<p>・表現上の差異（女川2号機では他の計算方法との記載の統一のため左記記載とする。）</p> <p>・記号の説明については、プラントユニークであるため、差分の抽出は実施しない。</p>
設計・建設規格の記号	計算書の表示	表示内容	単位																																																																												
P	P	最高使用圧力	MPa																																																																												
η	η	継手の効率	—																																																																												
		設計・建設規格 PVD-3110 に規定している継手の種類に応じた効率を使用する。	—																																																																												
		継手の種類																																																																													
		継手無し	—																																																																												
		突合せ両側溶接	—																																																																												
		裏当金（取り除く。）を使用した突合せ片側溶接	—																																																																												
		裏当金を使用した突合せ片側溶接（溶接後裏当金を取り除いたものに限る。）並びにこれと同等以上の効果が得られる方法による溶接	—																																																																												
		裏当金（取り除かず。）を使用した突合せ片側溶接	—																																																																												
		裏当金を使用しない突合せ片側溶接	—																																																																												
		両側全厚すみ肉重ね溶接	—																																																																												
		プラグ溶接を行う片側全厚すみ肉重ね溶接	—																																																																												
		プラグ溶接を行わない片側全厚すみ肉重ね溶接	—																																																																												
		放射線検査の有無																																																																													
		有り	—																																																																												
		発電用原子力設備規格（溶接規格 J S M E S N B 1 - 2001）（日本機械学会 2001 年 2 月）N-3140 及び N-4140（N-1100（1）a 準用）の規定に準じて放射線透過試験を行い、同規格の規定に適合するもの	—																																																																												
		無し	—																																																																												
		その他のもの	—																																																																												

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																												
		<p>2.2 開放タンクの構造及び強度</p> <p>2.2.1 開放タンクの胴の計算</p> <p>消火水タンク及び屋外消火系消火水タンクについては設計・建設規格 PVD-3010（設計・建設規格 PVC-3920 準用）を適用する。</p> <p>(1) 記号の説明</p> <table border="1"><thead><tr><th>設計・建設規格の記号</th><th>計算書の表示</th><th>表示内容</th><th>単位</th></tr></thead><tbody><tr><td>D_i</td><td>D_i</td><td>胴の内径</td><td>m</td></tr><tr><td>H</td><td>H</td><td>水頭</td><td>m</td></tr><tr><td>S</td><td>S</td><td>最高使用温度における材料の許容引張応力 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 e または表 e による。</td><td>MPa</td></tr><tr><td></td><td>t</td><td>胴に必要な厚さ</td><td>mm</td></tr><tr><td></td><td>t₁</td><td>胴の規格上必要な最小厚さ</td><td>mm</td></tr><tr><td>t</td><td>t₂</td><td>胴の計算上必要な厚さ</td><td>mm</td></tr><tr><td></td><td>t₃</td><td>胴の内径に応じた必要厚さ</td><td>mm</td></tr><tr><td></td><td>t₄</td><td>胴の最小厚さ</td><td>mm</td></tr><tr><td></td><td>t₅₀</td><td>胴の呼び厚さ</td><td>mm</td></tr><tr><td>ρ</td><td>ρ</td><td>液体の比重。ただし、1.00未満の場合は1.00とする。</td><td>—</td></tr></tbody></table> <p>(2) 算式</p> <p>開放タンクの胴に必要な厚さは、次に掲げる値のうちいずれか大きい値とする。</p> <p>a. 規格上必要な最小厚さ：t₁ 炭素鋼鋼板又は低合金鋼鋼板で作られた場合は3mm、その他の材料で作られた場合は1.5mmとする。</p> <p>b. 胴の計算上必要な厚さ：t₂</p> $t_2 = \frac{D_i \cdot H \cdot \rho}{0.204 \cdot S \cdot \eta}$ <p>c. 胴の内径に応じた必要厚さ：t₃ 胴の内径が5mを超えるものについては、胴の内径の区分に応じ設計・建設規格表 PVC-3920-1 より求めた胴の厚さとする。</p>	設計・建設規格の記号	計算書の表示	表示内容	単位	D _i	D _i	胴の内径	m	H	H	水頭	m	S	S	最高使用温度における材料の許容引張応力 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 e または表 e による。	MPa		t	胴に必要な厚さ	mm		t ₁	胴の規格上必要な最小厚さ	mm	t	t ₂	胴の計算上必要な厚さ	mm		t ₃	胴の内径に応じた必要厚さ	mm		t ₄	胴の最小厚さ	mm		t ₅₀	胴の呼び厚さ	mm	ρ	ρ	液体の比重。ただし、1.00未満の場合は1.00とする。	—	<ul style="list-style-type: none">・表現上の差異・対象設備の差異・表現上の差異 (PVD-3110の適用については2.1共通記号の章で説明しているため記載しない。)・記号の説明については、プラントユニークであるため、差分の抽出は実施しない。・表現上の差異
設計・建設規格の記号	計算書の表示	表示内容	単位																																												
D _i	D _i	胴の内径	m																																												
H	H	水頭	m																																												
S	S	最高使用温度における材料の許容引張応力 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 e または表 e による。	MPa																																												
	t	胴に必要な厚さ	mm																																												
	t ₁	胴の規格上必要な最小厚さ	mm																																												
t	t ₂	胴の計算上必要な厚さ	mm																																												
	t ₃	胴の内径に応じた必要厚さ	mm																																												
	t ₄	胴の最小厚さ	mm																																												
	t ₅₀	胴の呼び厚さ	mm																																												
ρ	ρ	液体の比重。ただし、1.00未満の場合は1.00とする。	—																																												

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																																								
		<p>(3) 評価 胴の最小厚さ（t_s）\geq胴に必要な厚さ（t）ならば十分である。</p> <p>2.2.2 開放タンクの平板の厚さの計算 消火水タンク及び屋外消火系消火水タンクについては、設計・建設規格 PVD-3310 を適用する。</p> <p>(1) 記号の説明</p> <table border="1"><thead><tr><th>設計・建設規格、JISの記号</th><th>計算書の表示</th><th>表示内容</th><th>単位</th></tr></thead><tbody><tr><td>A_b</td><td>A_b</td><td>実際に使用するボルトの総有効断面積</td><td>mm²</td></tr><tr><td>A_m</td><td>A_m</td><td>ボルトの総有効断面積</td><td>mm²</td></tr><tr><td>A_{m1}</td><td>A_{m1}</td><td>使用状態でのボルトの総有効断面積</td><td>mm²</td></tr><tr><td>A_{m2}</td><td>A_{m2}</td><td>ガスケット締付時のボルトの総有効断面積</td><td>mm²</td></tr><tr><td>b</td><td>b</td><td>ガスケット座の有効幅</td><td>mm</td></tr><tr><td>b_o</td><td>b_o</td><td>ガスケット座の基本幅（JIS B 8265 附属書3 表3による。）</td><td>mm</td></tr><tr><td>C</td><td>C</td><td>ボルト穴の中心円の直径</td><td>mm</td></tr><tr><td>d, G</td><td>d</td><td>設計・建設規格 表 PVD-3310-1 に規定する方法によって測った平板の径又は最小内径（ガスケットの場合 $d-G$）</td><td>mm</td></tr><tr><td>d_b</td><td>d_b</td><td>ボルトのねじ部の谷の径と軸部の径の最小部のいずれか小さい方の径</td><td>mm</td></tr><tr><td>F</td><td>F</td><td>全体のボルトに作用する力</td><td>N</td></tr><tr><td>G</td><td>G</td><td>ガスケット反力円の直径</td><td>mm</td></tr><tr><td>G_s</td><td>G_s</td><td>ガスケット接触面の外径</td><td>mm</td></tr><tr><td>H</td><td>H</td><td>内圧によってフランジに加わる全荷重</td><td>N</td></tr><tr><td>H_p</td><td>H_p</td><td>気密を十分に保つために、ガスケット又は継手接触面に加える圧縮力</td><td>N</td></tr><tr><td>h_g</td><td>h_g</td><td>モーメントアームでボルトのピッチ円の直径と d との差の 2 分の 1</td><td>mm</td></tr><tr><td>K</td><td>K</td><td>平板の厚さ計算における取付け方法による係数</td><td>-</td></tr><tr><td>ℓ</td><td>ℓ</td><td>フランジ部の長さ</td><td>mm</td></tr></tbody></table>	設計・建設規格、JISの記号	計算書の表示	表示内容	単位	A_b	A_b	実際に使用するボルトの総有効断面積	mm ²	A_m	A_m	ボルトの総有効断面積	mm ²	A_{m1}	A_{m1}	使用状態でのボルトの総有効断面積	mm ²	A_{m2}	A_{m2}	ガスケット締付時のボルトの総有効断面積	mm ²	b	b	ガスケット座の有効幅	mm	b_o	b_o	ガスケット座の基本幅（JIS B 8265 附属書3 表3による。）	mm	C	C	ボルト穴の中心円の直径	mm	d, G	d	設計・建設規格 表 PVD-3310-1 に規定する方法によって測った平板の径又は最小内径（ガスケットの場合 $d-G$ ）	mm	d_b	d_b	ボルトのねじ部の谷の径と軸部の径の最小部のいずれか小さい方の径	mm	F	F	全体のボルトに作用する力	N	G	G	ガスケット反力円の直径	mm	G_s	G_s	ガスケット接触面の外径	mm	H	H	内圧によってフランジに加わる全荷重	N	H_p	H_p	気密を十分に保つために、ガスケット又は継手接触面に加える圧縮力	N	h_g	h_g	モーメントアームでボルトのピッチ円の直径と d との差の 2 分の 1	mm	K	K	平板の厚さ計算における取付け方法による係数	-	ℓ	ℓ	フランジ部の長さ	mm	<p>・評価対象設備の差異（女川2号機の開放タンクで平板の厚さの計算が必要となるため追加する。）</p>
設計・建設規格、JISの記号	計算書の表示	表示内容	単位																																																																								
A_b	A_b	実際に使用するボルトの総有効断面積	mm ²																																																																								
A_m	A_m	ボルトの総有効断面積	mm ²																																																																								
A_{m1}	A_{m1}	使用状態でのボルトの総有効断面積	mm ²																																																																								
A_{m2}	A_{m2}	ガスケット締付時のボルトの総有効断面積	mm ²																																																																								
b	b	ガスケット座の有効幅	mm																																																																								
b_o	b_o	ガスケット座の基本幅（JIS B 8265 附属書3 表3による。）	mm																																																																								
C	C	ボルト穴の中心円の直径	mm																																																																								
d, G	d	設計・建設規格 表 PVD-3310-1 に規定する方法によって測った平板の径又は最小内径（ガスケットの場合 $d-G$ ）	mm																																																																								
d_b	d_b	ボルトのねじ部の谷の径と軸部の径の最小部のいずれか小さい方の径	mm																																																																								
F	F	全体のボルトに作用する力	N																																																																								
G	G	ガスケット反力円の直径	mm																																																																								
G_s	G_s	ガスケット接触面の外径	mm																																																																								
H	H	内圧によってフランジに加わる全荷重	N																																																																								
H_p	H_p	気密を十分に保つために、ガスケット又は継手接触面に加える圧縮力	N																																																																								
h_g	h_g	モーメントアームでボルトのピッチ円の直径と d との差の 2 分の 1	mm																																																																								
K	K	平板の厚さ計算における取付け方法による係数	-																																																																								
ℓ	ℓ	フランジ部の長さ	mm																																																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■■■■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																																																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>設計・建設規格、JISの記号</th> <th>計算書の表示</th> <th>表示内容</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>m</td> <td>m</td> <td>ガスケット係数（JIS B 8265 附属書3 表2による。）</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>N</td> <td>N</td> <td>ガスケットの接触面の幅（JIS B 8265 附属書3 表3による。）</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>n</td> <td>n</td> <td>ボルトの本数</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>P</td> <td>P</td> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td>r</td> <td>r</td> <td>すみの丸みの内半径</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>S</td> <td>S</td> <td>内圧時の最高使用温度における材料の許容引張応力</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td>σ_a</td> <td>S_a</td> <td>設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5 又は表6による。 常温におけるボルト材料の許容引張応力</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td>σ_b</td> <td>S_b</td> <td>設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表7 による。 最高使用温度におけるボルト材料の許容引張応力</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td>t</td> <td>t</td> <td>設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表7 による。 平板の計算上必要な厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>t_c</td> <td>t_c</td> <td>平板のすみ肉のど厚</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>t_f</td> <td>t_f</td> <td>平板のフランジ部の厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>t_n</td> <td>t_n</td> <td>ガスケット溝を考慮した平板の厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>t_p</td> <td>平板の最小厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>$t_{p.o}$</td> <td>平板の呼び厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>t_s</td> <td>t_s</td> <td>胴又は管の最小厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>t_r</td> <td>$t_{s.r}$</td> <td>胴又は管の継目がない場合の計算上必要な厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>t_w</td> <td>t_w</td> <td>設計・建設規格 表 PVD-3310-1 による。</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>t_{w1}</td> <td>t_{w1}</td> <td>設計・建設規格 表 PVD-3310-1 による。</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>t_{w2}</td> <td>t_{w2}</td> <td>設計・建設規格 表 PVD-3310-1 による。</td> <td>mm</td> </tr> </tbody> </table>	設計・建設規格、JISの記号	計算書の表示	表示内容	単位	m	m	ガスケット係数（JIS B 8265 附属書3 表2による。）	—	N	N	ガスケットの接触面の幅（JIS B 8265 附属書3 表3による。）	mm	n	n	ボルトの本数	—	P	P	最高使用圧力	MPa	r	r	すみの丸みの内半径	mm	S	S	内圧時の最高使用温度における材料の許容引張応力	MPa	σ_a	S_a	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5 又は表6による。 常温におけるボルト材料の許容引張応力	MPa	σ_b	S_b	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表7 による。 最高使用温度におけるボルト材料の許容引張応力	MPa	t	t	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表7 による。 平板の計算上必要な厚さ	mm	t_c	t_c	平板のすみ肉のど厚	mm	t_f	t_f	平板のフランジ部の厚さ	mm	t_n	t_n	ガスケット溝を考慮した平板の厚さ	mm		t_p	平板の最小厚さ	mm		$t_{p.o}$	平板の呼び厚さ	mm	t_s	t_s	胴又は管の最小厚さ	mm	t_r	$t_{s.r}$	胴又は管の継目がない場合の計算上必要な厚さ	mm	t_w	t_w	設計・建設規格 表 PVD-3310-1 による。	mm	t_{w1}	t_{w1}	設計・建設規格 表 PVD-3310-1 による。	mm	t_{w2}	t_{w2}	設計・建設規格 表 PVD-3310-1 による。	mm	<p>・評価対象設備の差異（女川2号機の開放タンクで平板の厚さの計算が必要となるため追加する。）</p>
設計・建設規格、JISの記号	計算書の表示	表示内容	単位																																																																																
m	m	ガスケット係数（JIS B 8265 附属書3 表2による。）	—																																																																																
N	N	ガスケットの接触面の幅（JIS B 8265 附属書3 表3による。）	mm																																																																																
n	n	ボルトの本数	—																																																																																
P	P	最高使用圧力	MPa																																																																																
r	r	すみの丸みの内半径	mm																																																																																
S	S	内圧時の最高使用温度における材料の許容引張応力	MPa																																																																																
σ_a	S_a	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5 又は表6による。 常温におけるボルト材料の許容引張応力	MPa																																																																																
σ_b	S_b	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表7 による。 最高使用温度におけるボルト材料の許容引張応力	MPa																																																																																
t	t	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表7 による。 平板の計算上必要な厚さ	mm																																																																																
t_c	t_c	平板のすみ肉のど厚	mm																																																																																
t_f	t_f	平板のフランジ部の厚さ	mm																																																																																
t_n	t_n	ガスケット溝を考慮した平板の厚さ	mm																																																																																
	t_p	平板の最小厚さ	mm																																																																																
	$t_{p.o}$	平板の呼び厚さ	mm																																																																																
t_s	t_s	胴又は管の最小厚さ	mm																																																																																
t_r	$t_{s.r}$	胴又は管の継目がない場合の計算上必要な厚さ	mm																																																																																
t_w	t_w	設計・建設規格 表 PVD-3310-1 による。	mm																																																																																
t_{w1}	t_{w1}	設計・建設規格 表 PVD-3310-1 による。	mm																																																																																
t_{w2}	t_{w2}	設計・建設規格 表 PVD-3310-1 による。	mm																																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

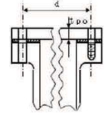
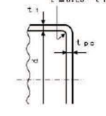
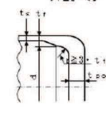
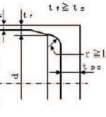
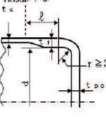
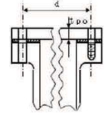
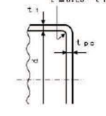
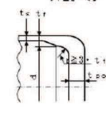
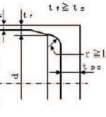
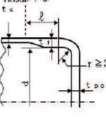
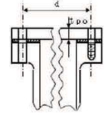
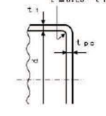
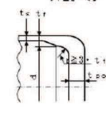
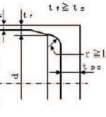
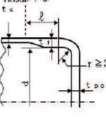
黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>設計・建設規格, J I Sの記号</th> <th>計算書の 表示</th> <th>表示内容</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>W</td> <td>W</td> <td>パッキンの外径又は平板の接触面の外径内の面積に作用する全圧力</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td>W_g</td> <td>W_g</td> <td>ガスケット締付時のボルト荷重</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td>W_{m1}</td> <td>W_{m1}</td> <td>使用状態での必要な最小ボルト荷重</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td>W_{m2}</td> <td>W_{m2}</td> <td>ガスケット締付時に必要な最小ボルト荷重</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td>W_o</td> <td>W_o</td> <td>使用状態でのボルト荷重</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td>y</td> <td>y</td> <td>ガスケットの最小設計締付圧力（J I S B 8 2 6 5 附属書3 表2による。）</td> <td>N/mm²</td> </tr> <tr> <td>π</td> <td>π</td> <td>円周率</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>σ_p</td> <td>平板に作用する力によって生じる応力</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ガスケット座面の形状</td> <td>ガスケット座面の形状（J I S B 8 2 6 5 附属書3 表3による。）</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	設計・建設規格, J I Sの記号	計算書の 表示	表示内容	単位	W	W	パッキンの外径又は平板の接触面の外径内の面積に作用する全圧力	N	W_g	W_g	ガスケット締付時のボルト荷重	N	W_{m1}	W_{m1}	使用状態での必要な最小ボルト荷重	N	W_{m2}	W_{m2}	ガスケット締付時に必要な最小ボルト荷重	N	W_o	W_o	使用状態でのボルト荷重	N	y	y	ガスケットの最小設計締付圧力（J I S B 8 2 6 5 附属書3 表2による。）	N/mm ²	π	π	円周率	—		σ_p	平板に作用する力によって生じる応力	MPa		ガスケット座面の形状	ガスケット座面の形状（J I S B 8 2 6 5 附属書3 表3による。）	—	<p>・評価対象設備の差異（女川2号機の開放タンクで平板の厚さの計算が必要となるため追加する。）</p>
設計・建設規格, J I Sの記号	計算書の 表示	表示内容	単位																																								
W	W	パッキンの外径又は平板の接触面の外径内の面積に作用する全圧力	N																																								
W_g	W_g	ガスケット締付時のボルト荷重	N																																								
W_{m1}	W_{m1}	使用状態での必要な最小ボルト荷重	N																																								
W_{m2}	W_{m2}	ガスケット締付時に必要な最小ボルト荷重	N																																								
W_o	W_o	使用状態でのボルト荷重	N																																								
y	y	ガスケットの最小設計締付圧力（J I S B 8 2 6 5 附属書3 表2による。）	N/mm ²																																								
π	π	円周率	—																																								
	σ_p	平板に作用する力によって生じる応力	MPa																																								
	ガスケット座面の形状	ガスケット座面の形状（J I S B 8 2 6 5 附属書3 表3による。）	—																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

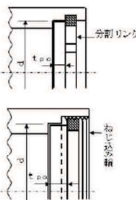
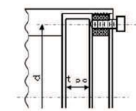
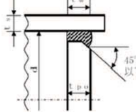
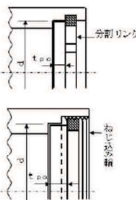
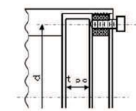
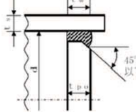
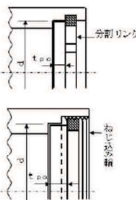
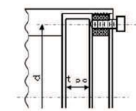
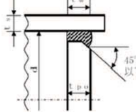
《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考												
		<p>(2) 形状の制限</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1330 288 1435 316">取付け方法</th> <th data-bbox="1440 288 1677 316">形状の制限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1330 317 1435 469">(a) </td> <td data-bbox="1440 317 1677 469">無し。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1330 470 1435 620">(b) </td> <td data-bbox="1440 470 1677 620">$d \leq 600\text{mm}$, $d/4 > t_p \geq d/20$ かつ, $r \geq t_f/4$ であること。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1330 622 1435 772">(c) </td> <td data-bbox="1440 622 1677 772">$t_f \geq 2 \cdot t_s$ かつ, $r \geq 3 \cdot t_f$ であること。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1330 774 1435 924">(d) </td> <td data-bbox="1440 774 1677 924">$t_f \geq t_s$ かつ, $r \geq 1.5 \cdot t_s$ であること。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1330 925 1435 1075">(e) </td> <td data-bbox="1440 925 1677 1075">$r \geq 3 \cdot t_f$ であること。</td> </tr> </tbody> </table>	取付け方法	形状の制限	(a) 	無し。	(b) 	$d \leq 600\text{mm}$, $d/4 > t_p \geq d/20$ かつ, $r \geq t_f/4$ であること。	(c) 	$t_f \geq 2 \cdot t_s$ かつ, $r \geq 3 \cdot t_f$ であること。	(d) 	$t_f \geq t_s$ かつ, $r \geq 1.5 \cdot t_s$ であること。	(e) 	$r \geq 3 \cdot t_f$ であること。	<p>・評価対象設備の差異（女川2号機の開放タンクで平板の厚さの計算が必要となるため追加する。）</p>
取付け方法	形状の制限														
(a) 	無し。														
(b) 	$d \leq 600\text{mm}$, $d/4 > t_p \geq d/20$ かつ, $r \geq t_f/4$ であること。														
(c) 	$t_f \geq 2 \cdot t_s$ かつ, $r \geq 3 \cdot t_f$ であること。														
(d) 	$t_f \geq t_s$ かつ, $r \geq 1.5 \cdot t_s$ であること。														
(e) 	$r \geq 3 \cdot t_f$ であること。														

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

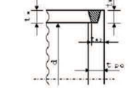
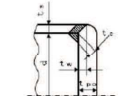
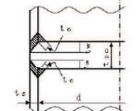
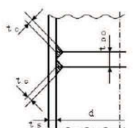
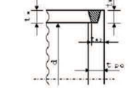
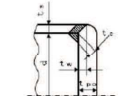
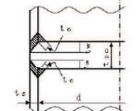
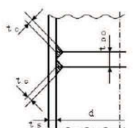
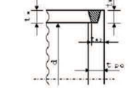
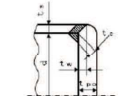
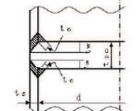
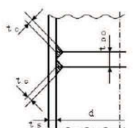
《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1335 288 1435 309">取付け方法</th> <th data-bbox="1440 288 1675 309">形状の制限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1335 312 1435 459">(f) </td> <td data-bbox="1440 312 1675 459">$0.8 \cdot S_b \geq \sigma_p$ かつ、 $r \geq 3 \cdot t_f$ であること。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1335 462 1435 694">(g) </td> <td data-bbox="1440 462 1675 694">$0.8 \cdot S_b \geq \sigma_p$ であること。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1335 697 1435 837">(h) </td> <td data-bbox="1440 697 1675 837">$0.8 \cdot S_b \geq \sigma_p$ であること。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1335 841 1435 981">(i) </td> <td data-bbox="1440 841 1675 981">$t_w \geq 2 \cdot t_s$ かつ、 $t_w \geq 1.25 \cdot t_b$ であること。</td> </tr> </tbody> </table>	取付け方法	形状の制限	(f) 	$0.8 \cdot S_b \geq \sigma_p$ かつ、 $r \geq 3 \cdot t_f$ であること。	(g) 	$0.8 \cdot S_b \geq \sigma_p$ であること。	(h) 	$0.8 \cdot S_b \geq \sigma_p$ であること。	(i) 	$t_w \geq 2 \cdot t_s$ かつ、 $t_w \geq 1.25 \cdot t_b$ であること。	<p>・評価対象設備の差異（女川2号機の開放タンクで平板の厚さの計算が必要となるため追加する。）</p>
取付け方法	形状の制限												
(f) 	$0.8 \cdot S_b \geq \sigma_p$ かつ、 $r \geq 3 \cdot t_f$ であること。												
(g) 	$0.8 \cdot S_b \geq \sigma_p$ であること。												
(h) 	$0.8 \cdot S_b \geq \sigma_p$ であること。												
(i) 	$t_w \geq 2 \cdot t_s$ かつ、 $t_w \geq 1.25 \cdot t_b$ であること。												

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

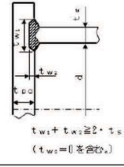
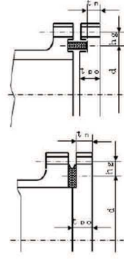
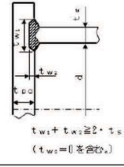
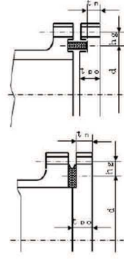
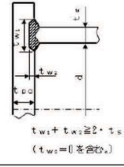
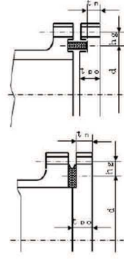
《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1332 292 1440 316">取付け方法</th> <th data-bbox="1444 292 1677 316">形状の制限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1332 316 1440 467"> (j)  $t_{w1} + t_{w2} \geq 2 \cdot t_s$ $t_{w1} \geq t_s$ $t_s \geq 1.25 \cdot t_{sf}$ </td> <td data-bbox="1444 316 1677 467"> $t_{w1} + t_{w2} \geq 2 \cdot t_s$, $t_{w1} \geq t_s$かつ, $t_s \geq 1.25 \cdot t_{sf}$であること。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1332 467 1440 643"> (k) (1)  </td> <td data-bbox="1444 467 1677 643"> $t_w \geq \text{Min}(0.5 \cdot t_s, 0.25 \cdot t_{po})$かつ, $t_c \geq \text{Min}(0.7 \cdot t_s, 6\text{mm})$であること。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1332 643 1440 866"> (k) (2)  </td> <td data-bbox="1444 643 1677 866"> $t_w \geq \text{Min}(1.0 \cdot t_s, 0.5 \cdot t_{po})$かつ, $t_c \geq \text{Min}(0.7 \cdot t_s, 6\text{mm})$であること。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1332 866 1440 1042"> (d)  </td> <td data-bbox="1444 866 1677 1042"> $t_c \geq \text{Min}(0.7 \cdot t_s, 6\text{mm})$であること。 </td> </tr> </tbody> </table>	取付け方法	形状の制限	(j)  $t_{w1} + t_{w2} \geq 2 \cdot t_s$ $t_{w1} \geq t_s$ $t_s \geq 1.25 \cdot t_{sf}$	$t_{w1} + t_{w2} \geq 2 \cdot t_s$, $t_{w1} \geq t_s$ かつ, $t_s \geq 1.25 \cdot t_{sf}$ であること。	(k) (1) 	$t_w \geq \text{Min}(0.5 \cdot t_s, 0.25 \cdot t_{po})$ かつ, $t_c \geq \text{Min}(0.7 \cdot t_s, 6\text{mm})$ であること。	(k) (2) 	$t_w \geq \text{Min}(1.0 \cdot t_s, 0.5 \cdot t_{po})$ かつ, $t_c \geq \text{Min}(0.7 \cdot t_s, 6\text{mm})$ であること。	(d) 	$t_c \geq \text{Min}(0.7 \cdot t_s, 6\text{mm})$ であること。	<p>・評価対象設備の差異（女川2号機の開放タンクで平板の厚さの計算が必要となるため追加する。）</p>
取付け方法	形状の制限												
(j)  $t_{w1} + t_{w2} \geq 2 \cdot t_s$ $t_{w1} \geq t_s$ $t_s \geq 1.25 \cdot t_{sf}$	$t_{w1} + t_{w2} \geq 2 \cdot t_s$, $t_{w1} \geq t_s$ かつ, $t_s \geq 1.25 \cdot t_{sf}$ であること。												
(k) (1) 	$t_w \geq \text{Min}(0.5 \cdot t_s, 0.25 \cdot t_{po})$ かつ, $t_c \geq \text{Min}(0.7 \cdot t_s, 6\text{mm})$ であること。												
(k) (2) 	$t_w \geq \text{Min}(1.0 \cdot t_s, 0.5 \cdot t_{po})$ かつ, $t_c \geq \text{Min}(0.7 \cdot t_s, 6\text{mm})$ であること。												
(d) 	$t_c \geq \text{Min}(0.7 \cdot t_s, 6\text{mm})$ であること。												

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1332 284 1435 316"></th> <th data-bbox="1440 284 1675 316">取付け方法</th> <th data-bbox="1680 284 1937 316">形状の制限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1332 316 1435 483">(m)</td> <td data-bbox="1440 316 1675 483">  </td> <td data-bbox="1680 316 1937 483"> $t_{w1} + t_{w2} \geq 2 \cdot t_s$ ($t_{w2} = 0$ を含む) </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1332 483 1435 802">(n)</td> <td data-bbox="1440 483 1675 802">  </td> <td data-bbox="1680 483 1937 802">無し。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1332 802 1435 826">(o)</td> <td data-bbox="1440 802 1675 826">その他の場合</td> <td data-bbox="1680 802 1937 826">無し。</td> </tr> </tbody> </table>		取付け方法	形状の制限	(m)		$t_{w1} + t_{w2} \geq 2 \cdot t_s$ ($t_{w2} = 0$ を含む)	(n)		無し。	(o)	その他の場合	無し。	<p>・評価対象設備の差異 （女川2号機の開放タンクで平板の厚さの計算が必要となるため追加する。）</p>
	取付け方法	形状の制限													
(m)		$t_{w1} + t_{w2} \geq 2 \cdot t_s$ ($t_{w2} = 0$ を含む)													
(n)		無し。													
(o)	その他の場合	無し。													

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																		
		<p>(3) 算式</p> <p>平板の計算上必要な厚さは、次の式による値とする。</p> <p>a. 平板に穴がない場合</p> $t = d \cdot \sqrt{\frac{K \cdot P}{S}}$ <p>Kの値は以下による。</p> <table border="1" data-bbox="1330 512 1939 962"> <thead> <tr> <th>取付け方法</th> <th>Kの値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(a)</td> <td>0.17</td> </tr> <tr> <td>(b)</td> <td>0.13</td> </tr> <tr> <td>(c)</td> <td>0.17</td> </tr> <tr> <td>(d)</td> <td>Max(0.2, 0.33·m) ここで、m = t_{s,r} / t_s</td> </tr> <tr> <td>(e)</td> <td>0.17 0.10*1</td> </tr> <tr> <td>(f)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(g)</td> <td>0.20</td> </tr> <tr> <td>(h)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(i)</td> <td>Max(0.2, 0.33·m) ここで、m = t_{s,r} / t_s</td> </tr> <tr> <td>(j)</td> <td>0.33</td> </tr> <tr> <td>(k) (1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(k) (2)</td> <td>Max(0.2, 0.33·m)</td> </tr> <tr> <td>(l)</td> <td>ここで、m = t_{s,r} / t_s</td> </tr> <tr> <td>(m)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(n)</td> <td>$0.20 + \frac{1.0 \cdot F \cdot h_g}{W \cdot d}$ ただし、t_aの厚さにあつては $\frac{1.0 \cdot F \cdot h_g}{W \cdot d} \cdot 2$</td> </tr> <tr> <td>(o)</td> <td>0.50</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：取付け方法(e)においてt_fからt_sへ移行するテーパが1対4又はそれより緩やかであり、かつ、以下の①又は②いずれかの場合、K=0.10とする。</p> <p>① $l \geq \left(1.1 - 0.8 \cdot \frac{t_s^2}{t_f^2}\right) \cdot \sqrt{d \cdot t_f}$の場合</p> <p>② t_sが $2 \cdot \sqrt{d \cdot t_s}$ 以上の長さになつて</p> $t_s \geq 1.12 \cdot t_f \cdot \sqrt{1.1 - l / \sqrt{d \cdot t_f}}$	取付け方法	Kの値	(a)	0.17	(b)	0.13	(c)	0.17	(d)	Max(0.2, 0.33·m) ここで、m = t _{s,r} / t _s	(e)	0.17 0.10*1	(f)		(g)	0.20	(h)		(i)	Max(0.2, 0.33·m) ここで、m = t _{s,r} / t _s	(j)	0.33	(k) (1)		(k) (2)	Max(0.2, 0.33·m)	(l)	ここで、m = t _{s,r} / t _s	(m)		(n)	$0.20 + \frac{1.0 \cdot F \cdot h_g}{W \cdot d}$ ただし、t _a の厚さにあつては $\frac{1.0 \cdot F \cdot h_g}{W \cdot d} \cdot 2$	(o)	0.50	<p>・評価対象設備の差異（女川2号機の開放タンクで平板の厚さの計算が必要となるため追加する。）</p>
取付け方法	Kの値																																				
(a)	0.17																																				
(b)	0.13																																				
(c)	0.17																																				
(d)	Max(0.2, 0.33·m) ここで、m = t _{s,r} / t _s																																				
(e)	0.17 0.10*1																																				
(f)																																					
(g)	0.20																																				
(h)																																					
(i)	Max(0.2, 0.33·m) ここで、m = t _{s,r} / t _s																																				
(j)	0.33																																				
(k) (1)																																					
(k) (2)	Max(0.2, 0.33·m)																																				
(l)	ここで、m = t _{s,r} / t _s																																				
(m)																																					
(n)	$0.20 + \frac{1.0 \cdot F \cdot h_g}{W \cdot d}$ ただし、t _a の厚さにあつては $\frac{1.0 \cdot F \cdot h_g}{W \cdot d} \cdot 2$																																				
(o)	0.50																																				

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>注記 *2：取付け方法（n）の場合のF、h_g、W及びdは以下による。</p> <p>(a) ガasket座の有効幅及びガasket反力円の直径 ガasket座の有効幅（b）及びガasket反力円の直径（G）は、ガasket座の基本幅（b_o）に従い以下のよう求める。</p> <p>b_o ≤ 6.35 mm の場合 b = b_o G = G_s - N</p> <p>b_o > 6.35 mm の場合 b = 2.52 · √b_o G = G_s - 2 · b</p> <p>ただし、b_oはJ I S B 8 2 6 5 附属書3 表3による。 d = G</p> <p>(b) 計算上必要なボルト荷重 イ. 使用状態で必要なボルト荷重 W_{m1} = H + H_p H = $\frac{\pi}{4} \cdot G^2 \cdot P$ W = H H_p = 2 · π · b · G · m · P</p> <p>ロ. ガasket縮付時に必要なボルト荷重 W_{m2} = π · b · G · y</p> <p>(c) ボルトの総有効断面積及び実際に使用するボルトの総有効断面積 A_{m1} = $\frac{W_{m1}}{S_b}$ (使用状態) A_{m2} = $\frac{W_{m2}}{S_a}$ (ガasket縮付時) A_m = Max(A_{m1}, A_{m2}) A_b = $\frac{\pi}{4} \cdot d_b^2 \cdot n$</p>	<p>・評価対象設備の差異（女川2号機の開放タンクで平板の厚さの計算が必要となるため追加する。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>(d) フランジの計算に用いるボルト荷重</p> $W_o = W_{m1} \quad (\text{使用状態})$ $W_g = \left(\frac{A_m + A_b}{2} \right) \cdot S_a \quad (\text{ガスケット締付時})$ $F = \text{Max}(W_o, W_g)$ <p>(e) 使用状態でのフランジ荷重に対するモーメントアーム</p> $h_g = \frac{C-G}{2}$ <p>(4) 評価</p> <p>平板の最小厚さ（t_p）\geq平板の計算上必要な厚さ（t）ならば十分である。</p>	<p>・評価対象設備の差異（女川2号機の開放タンクで平板の厚さの計算が必要となるため追加する。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																
		<p>2.2.3 開放タンクの底板の計算</p> <p>消火水タンク及び屋外消火系消火水タンクについては設計・建設規格 PVD-3010（設計・建設規格 PVC-3960 及び PVC-3970 準用）を適用する。</p> <p>(1) 記号の説明</p> <table border="1" data-bbox="1330 414 1939 544"><thead><tr><th>設計・建設規格の記号</th><th>計算書の表示</th><th>表示内容</th><th>単位</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td>t</td><td>底板の規格上必要な厚さ</td><td>mm</td></tr><tr><td></td><td>t_b</td><td>底板の最小厚さ</td><td>mm</td></tr><tr><td></td><td>t_{b0}</td><td>底板の呼び厚さ</td><td>mm</td></tr></tbody></table> <p>(2) 形状の制限</p> <p>a. 平板</p> <p>(3) 算式</p> <p>開放タンクの底板に必要な厚さは次によるものとする。</p> <p>a. 地面、基礎等に直接接触するものの厚さ：t</p> <p>設計・建設規格 PVD-3010 により 3mm 以上</p>	設計・建設規格の記号	計算書の表示	表示内容	単位		t	底板の規格上必要な厚さ	mm		t _b	底板の最小厚さ	mm		t _{b0}	底板の呼び厚さ	mm	<p>・構成の差異</p> <p>・対象設備の差異</p> <p>・記号の説明については、プラントユニークであるため、差分の抽出は実施しない。</p> <p>・評価対象設備の差異（女川2号機では、クラス3容器として評価する開放タンクに、PVC-3210に規定されている鏡板はないため記載しない。）</p> <p>・評価対象設備の差異（女川2号機では、クラス3容器として評価する開放タンクに、PVC-3970(2)に規定されている底板はないため記載しない。）</p>
設計・建設規格の記号	計算書の表示	表示内容	単位																
	t	底板の規格上必要な厚さ	mm																
	t _b	底板の最小厚さ	mm																
	t _{b0}	底板の呼び厚さ	mm																

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

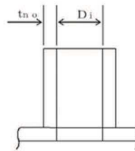
《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>(4) 評価 底板の最小厚さ（t_b）\geq底板に必要な厚さ（t）ならば十分である。</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																								
		<p>2.2.4 開放タンクの管台の計算</p> <p>消火水タンク及び屋外消火系消火水タンクについては設計・建設規格 PVD-3010（設計・建設規格 PVC-3980 準用）を適用する。</p> <p>(1) 記号の説明</p> <table border="1" data-bbox="1332 427 1937 762"><thead><tr><th>設計・建設規格の記号</th><th>計算書の表示</th><th>表示内容</th><th>単位</th></tr></thead><tbody><tr><td>D_i</td><td>D_i</td><td>管台の内径*</td><td>m</td></tr><tr><td>H</td><td>H</td><td>水頭</td><td>m</td></tr><tr><td>S</td><td>S</td><td>最高使用温度における材料の許容引張応力 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 5 又は表 6 による。</td><td>MPa</td></tr><tr><td></td><td>t</td><td>管台に必要な厚さ</td><td>mm</td></tr><tr><td>t</td><td>t_1</td><td>管台の計算上必要な厚さ</td><td>mm</td></tr><tr><td></td><td>t_2</td><td>管台の規格上必要な最小厚さ</td><td>mm</td></tr><tr><td></td><td>t_n</td><td>管台の最小厚さ</td><td>mm</td></tr><tr><td></td><td>t_{n0}</td><td>管台の呼び厚さ*</td><td>mm</td></tr><tr><td>ρ</td><td>ρ</td><td>液体の比重。ただし 1.00 未満の場合は 1.00 とする。</td><td>-</td></tr></tbody></table> <p>注記 *：管台の内径及び呼び厚さは、下図参照。</p>  <p>注：本図は、管台の内径及び呼び厚さの寸法を説明するものであり、管台の取付け形式を示すものではない。</p> <p>(2) 算式</p> <p>開放タンクの管台に必要な厚さは、次に掲げる値のうちいずれか大きい値とする。</p> <p>a. 管台の計算上必要な厚さ：t_1</p> $t_1 = \frac{D_i \cdot H \cdot \rho}{0.204 \cdot S \cdot \eta}$ <p>b. 規格上必要な最小厚さ：t_2</p> <p>管台の外径に応じ設計・建設規格 表 PVC-3980-1 より求めた管台の厚さ</p> <p>(3) 評価</p> <p>管台の最小厚さ（t_n）\geq管台に必要な厚さ（t）ならば十分である。</p>	設計・建設規格の記号	計算書の表示	表示内容	単位	D_i	D_i	管台の内径*	m	H	H	水頭	m	S	S	最高使用温度における材料の許容引張応力 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 5 又は表 6 による。	MPa		t	管台に必要な厚さ	mm	t	t_1	管台の計算上必要な厚さ	mm		t_2	管台の規格上必要な最小厚さ	mm		t_n	管台の最小厚さ	mm		t_{n0}	管台の呼び厚さ*	mm	ρ	ρ	液体の比重。ただし 1.00 未満の場合は 1.00 とする。	-	<p>・構成（章節番号）の差異</p> <p>・対象設備及び表現上の差異（PVD-3110 の適用については 2.1 共通記号で説明しているため記載しない。）</p> <p>・記号の説明については、プラントユニークであるため、差分の抽出は実施しない。</p> <p>・表現の適正化</p> <p>・表現の適正化</p>
設計・建設規格の記号	計算書の表示	表示内容	単位																																								
D_i	D_i	管台の内径*	m																																								
H	H	水頭	m																																								
S	S	最高使用温度における材料の許容引張応力 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 5 又は表 6 による。	MPa																																								
	t	管台に必要な厚さ	mm																																								
t	t_1	管台の計算上必要な厚さ	mm																																								
	t_2	管台の規格上必要な最小厚さ	mm																																								
	t_n	管台の最小厚さ	mm																																								
	t_{n0}	管台の呼び厚さ*	mm																																								
ρ	ρ	液体の比重。ただし 1.00 未満の場合は 1.00 とする。	-																																								

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 []：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																	
		<p>2.2.5 開放タンクの胴の穴の補強計算</p> <p>消火水タンク及び屋外消火系消火水タンクについては設計・建設規格 PVD-3010 及び PVD-3510（設計・建設規格 PVC-3160 及び PVC-3950 準用）を適用する。</p> <p>なお，穴を設ける場合の規定及び補強不要となる穴の規定については以下の通りとする。</p> <p>（PVD-3511，PVD-3512 適用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穴は，円形またはだ円形であること。ただし，容器内の流体等の監視用のために設ける穴で長方形の両端が凸形に半円形状であるものについてはこの限りではない。 ・穴の径（円形の穴については直径，だ円形の穴については長径をいう）が85mm以下の場合，補強計算は不要とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成（章節番号）の差異 ・対象設備及び表現上の差異（PVD-3110の適用については2.1共通記号で説明しているため記載しない。） ・記載の適正化 																																																	
		(1) 記号の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・記号の説明については，プラントユニークであるため，差分の抽出は実施しない。 																																																	
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>設計・建設規格の記号</th> <th>計算書の表示</th> <th>表示内容</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">A</td> <td>A₀</td> <td>補強に有効な総面積</td> <td>mm²</td> </tr> <tr> <td>A₁</td> <td>胴の部分の補強に有効な面積</td> <td>mm²</td> </tr> <tr> <td>A₂</td> <td>管台の部分の補強に有効な面積</td> <td>mm²</td> </tr> <tr> <td>A₃</td> <td>すみ肉溶接の部分の補強に有効な面積</td> <td>mm²</td> </tr> <tr> <td>A₄</td> <td>強め板の部分の補強に有効な面積</td> <td>mm²</td> </tr> <tr> <td>A_{0D}</td> <td>X₁ ≠ X₂ の場合の片側断面についての補強に有効な総面積</td> <td>mm²</td> </tr> <tr> <td>A_{1D}</td> <td>X₁ ≠ X₂ の場合の片側断面についての胴の部分の補強に有効な面積</td> <td>mm²</td> </tr> <tr> <td>A_{2D}</td> <td>X₁ ≠ X₂ の場合の片側断面についての管台の部分の補強に有効な面積</td> <td>mm²</td> </tr> <tr> <td>A_{3D}</td> <td>X₁ ≠ X₂ の場合の片側断面についてのすみ肉溶接の部分の補強に有効な面積</td> <td>mm²</td> </tr> <tr> <td>A_{4D}</td> <td>X₁ ≠ X₂ の場合の片側断面についての強め板の部分の補強に有効な面積</td> <td>mm²</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">A_r</td> <td>A_r</td> <td>穴の補強に必要な面積</td> <td>mm²</td> </tr> <tr> <td>A_{rD}</td> <td>片側断面についての穴の補強に必要な面積</td> <td>mm²</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">d</td> <td>B_e</td> <td>強め板の外径</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>d</td> <td>胴の断面に現われる穴の径</td> <td>mm</td> </tr> </tbody> </table>	設計・建設規格の記号	計算書の表示	表示内容	単位	A	A ₀	補強に有効な総面積	mm ²	A ₁	胴の部分の補強に有効な面積	mm ²	A ₂	管台の部分の補強に有効な面積	mm ²	A ₃	すみ肉溶接の部分の補強に有効な面積	mm ²	A ₄	強め板の部分の補強に有効な面積	mm ²	A _{0D}	X ₁ ≠ X ₂ の場合の片側断面についての補強に有効な総面積	mm ²	A _{1D}	X ₁ ≠ X ₂ の場合の片側断面についての胴の部分の補強に有効な面積	mm ²	A _{2D}	X ₁ ≠ X ₂ の場合の片側断面についての管台の部分の補強に有効な面積	mm ²	A _{3D}	X ₁ ≠ X ₂ の場合の片側断面についてのすみ肉溶接の部分の補強に有効な面積	mm ²	A _{4D}	X ₁ ≠ X ₂ の場合の片側断面についての強め板の部分の補強に有効な面積	mm ²	A _r	A _r	穴の補強に必要な面積	mm ²	A _{rD}	片側断面についての穴の補強に必要な面積	mm ²	d	B _e	強め板の外径	mm	d	胴の断面に現われる穴の径	mm	
設計・建設規格の記号	計算書の表示	表示内容	単位																																																	
A	A ₀	補強に有効な総面積	mm ²																																																	
	A ₁	胴の部分の補強に有効な面積	mm ²																																																	
	A ₂	管台の部分の補強に有効な面積	mm ²																																																	
	A ₃	すみ肉溶接の部分の補強に有効な面積	mm ²																																																	
	A ₄	強め板の部分の補強に有効な面積	mm ²																																																	
	A _{0D}	X ₁ ≠ X ₂ の場合の片側断面についての補強に有効な総面積	mm ²																																																	
	A _{1D}	X ₁ ≠ X ₂ の場合の片側断面についての胴の部分の補強に有効な面積	mm ²																																																	
	A _{2D}	X ₁ ≠ X ₂ の場合の片側断面についての管台の部分の補強に有効な面積	mm ²																																																	
	A _{3D}	X ₁ ≠ X ₂ の場合の片側断面についてのすみ肉溶接の部分の補強に有効な面積	mm ²																																																	
	A _{4D}	X ₁ ≠ X ₂ の場合の片側断面についての強め板の部分の補強に有効な面積	mm ²																																																	
A _r	A _r	穴の補強に必要な面積	mm ²																																																	
	A _{rD}	片側断面についての穴の補強に必要な面積	mm ²																																																	
d	B _e	強め板の外径	mm																																																	
	d	胴の断面に現われる穴の径	mm																																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																																																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1335 288 1435 331">設計・建設規格の記号</th> <th data-bbox="1440 288 1541 331">計算書の表示</th> <th data-bbox="1545 288 1877 331">表示内容</th> <th data-bbox="1881 288 1935 331">単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>d_w</td> <td>管台の取り付く穴の径（完全溶込み溶接により溶接された管台については、$d_w = D_{o.n} + \alpha$（αはルート間隔の2倍）、それ以外の管台については、$d_w = D_{o.n}$）</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>D_i</td> <td>D_i</td> <td>円筒胴にあつては胴の内径。</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>$D_{o.n}$</td> <td>管台の外径</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>F</td> <td>係数</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>F_1</td> <td>すみ肉溶接の許容せん断応力の係数</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>F_2</td> <td>突合せ溶接の許容せん断応力の係数</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>F_3</td> <td>突合せ溶接の許容引張応力の係数</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>F_4</td> <td>管台壁の許容せん断応力の係数</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>L_1</td> <td>溶接の脚長^{*1}</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>L_2</td> <td>溶接の脚長^{*1}</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>L_3</td> <td>溶接の脚長^{*1}</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>L_4</td> <td>溶接の脚長^{*1}</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>L_5</td> <td>溶接の脚長^{*1}</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>P</td> <td>$P = 9.80665 \times 10^{-3} \cdot H \cdot \rho$</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td></td> <td>S_o</td> <td>強め板材の許容引張応力</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5 又は表6による。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S</td> <td>S_n</td> <td>管台材の許容引張応力</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5 又は表6による。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S</td> <td>S_s</td> <td>胴板材の許容引張応力</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5 又は表6による。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	設計・建設規格の記号	計算書の表示	表示内容	単位		d_w	管台の取り付く穴の径（完全溶込み溶接により溶接された管台については、 $d_w = D_{o.n} + \alpha$ （ α はルート間隔の2倍）、それ以外の管台については、 $d_w = D_{o.n}$ ）	mm	D_i	D_i	円筒胴にあつては胴の内径。	mm		$D_{o.n}$	管台の外径	mm	F	F	係数	—		F_1	すみ肉溶接の許容せん断応力の係数	—		F_2	突合せ溶接の許容せん断応力の係数	—		F_3	突合せ溶接の許容引張応力の係数	—		F_4	管台壁の許容せん断応力の係数	—		L_1	溶接の脚長 ^{*1}	mm		L_2	溶接の脚長 ^{*1}	mm		L_3	溶接の脚長 ^{*1}	mm		L_4	溶接の脚長 ^{*1}	mm		L_5	溶接の脚長 ^{*1}	mm		P	$P = 9.80665 \times 10^{-3} \cdot H \cdot \rho$	MPa		S_o	強め板材の許容引張応力	MPa			設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5 又は表6による。		S	S_n	管台材の許容引張応力	MPa			設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5 又は表6による。		S	S_s	胴板材の許容引張応力	MPa			設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5 又は表6による。		<p>・記号の説明については、プラントユニークであるため、差分の抽出は実施しない。</p>
設計・建設規格の記号	計算書の表示	表示内容	単位																																																																																				
	d_w	管台の取り付く穴の径（完全溶込み溶接により溶接された管台については、 $d_w = D_{o.n} + \alpha$ （ α はルート間隔の2倍）、それ以外の管台については、 $d_w = D_{o.n}$ ）	mm																																																																																				
D_i	D_i	円筒胴にあつては胴の内径。	mm																																																																																				
	$D_{o.n}$	管台の外径	mm																																																																																				
F	F	係数	—																																																																																				
	F_1	すみ肉溶接の許容せん断応力の係数	—																																																																																				
	F_2	突合せ溶接の許容せん断応力の係数	—																																																																																				
	F_3	突合せ溶接の許容引張応力の係数	—																																																																																				
	F_4	管台壁の許容せん断応力の係数	—																																																																																				
	L_1	溶接の脚長 ^{*1}	mm																																																																																				
	L_2	溶接の脚長 ^{*1}	mm																																																																																				
	L_3	溶接の脚長 ^{*1}	mm																																																																																				
	L_4	溶接の脚長 ^{*1}	mm																																																																																				
	L_5	溶接の脚長 ^{*1}	mm																																																																																				
	P	$P = 9.80665 \times 10^{-3} \cdot H \cdot \rho$	MPa																																																																																				
	S_o	強め板材の許容引張応力	MPa																																																																																				
		設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5 又は表6による。																																																																																					
S	S_n	管台材の許容引張応力	MPa																																																																																				
		設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5 又は表6による。																																																																																					
S	S_s	胴板材の許容引張応力	MPa																																																																																				
		設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5 又は表6による。																																																																																					

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																																																																																																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1332 280 1435 323">設計・建設規格の記号</th> <th data-bbox="1440 280 1543 323">計算書の表示</th> <th data-bbox="1547 280 1879 323">表示内容</th> <th data-bbox="1883 280 1937 323">単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>Sw1</td> <td>すみ肉溶接部の許容せん断応力</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Sw2</td> <td>突合せ溶接部の許容せん断応力</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Sw3</td> <td>突合せ溶接部の許容引張応力</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Sw4</td> <td>管台壁の許容せん断応力</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td></td> <td>te</td> <td>強め板の最小厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>tn</td> <td>tn</td> <td>管台の最小厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>tno</td> <td>管台の呼び厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>tnr</td> <td>tnr</td> <td>管台の計算上必要な厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>ts</td> <td>ts</td> <td>胴の最小厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>tsr</td> <td>tsr</td> <td>胴の継目がない場合の計算上必要な厚さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>W</td> <td>溶接部の負うべき荷重</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>W1</td> <td>$W_1 = (A_2 + A_3 + A_4) \cdot S_s$</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>W2</td> <td>$W_2 = (d \cdot t_{sr} - A_1) \cdot S_s$ 又は $W_2 = (d_w \cdot t_{sr} - A_1) \cdot S_s$</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>We1</td> <td>すみ肉溶接部のせん断力（管台取付部：胴の外側）</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>We2</td> <td>すみ肉溶接部のせん断力（管台取付部：胴の内側）</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>We3</td> <td>すみ肉溶接部のせん断力（強め板取付部）</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>We4</td> <td>突合せ溶接部のせん断力（胴と強め板との突合せ部）</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>We5</td> <td>突合せ溶接部のせん断力（管台取付部）</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>We5D</td> <td>突合せ溶接部のせん断力（管台取付部）</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>We6</td> <td>突合せ溶接部の引張力（胴の部分径D_{on}において）</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>We7</td> <td>突合せ溶接部の引張力（胴の部分径d_wにおいて）</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>We8</td> <td>突合せ溶接部の引張力（強め板の部分径D_{on}において）</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>We9</td> <td>突合せ溶接部の引張力（強め板の部分径d_wにおいて）</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>We10</td> <td>管台のせん断力</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>We11</td> <td>すみ肉溶接部のせん断力（管台取付部の胴の部分径d_wより外側）</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Webp1</td> <td>予想される破断箇所の強さ</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Webp2</td> <td>予想される破断箇所の強さ</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Webp3</td> <td>予想される破断箇所の強さ</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Webp4</td> <td>予想される破断箇所の強さ</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Webp5</td> <td>予想される破断箇所の強さ</td> <td>N</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Webp6</td> <td>予想される破断箇所の強さ</td> <td>N</td> </tr> </tbody> </table>	設計・建設規格の記号	計算書の表示	表示内容	単位		Sw1	すみ肉溶接部の許容せん断応力	MPa		Sw2	突合せ溶接部の許容せん断応力	MPa		Sw3	突合せ溶接部の許容引張応力	MPa		Sw4	管台壁の許容せん断応力	MPa		te	強め板の最小厚さ	mm	tn	tn	管台の最小厚さ	mm		tno	管台の呼び厚さ	mm	tnr	tnr	管台の計算上必要な厚さ	mm	ts	ts	胴の最小厚さ	mm	tsr	tsr	胴の継目がない場合の計算上必要な厚さ	mm		W	溶接部の負うべき荷重	N		W1	$W_1 = (A_2 + A_3 + A_4) \cdot S_s$	N		W2	$W_2 = (d \cdot t_{sr} - A_1) \cdot S_s$ 又は $W_2 = (d_w \cdot t_{sr} - A_1) \cdot S_s$	N		We1	すみ肉溶接部のせん断力（管台取付部：胴の外側）	N		We2	すみ肉溶接部のせん断力（管台取付部：胴の内側）	N		We3	すみ肉溶接部のせん断力（強め板取付部）	N		We4	突合せ溶接部のせん断力（胴と強め板との突合せ部）	N		We5	突合せ溶接部のせん断力（管台取付部）	N		We5D	突合せ溶接部のせん断力（管台取付部）	N		We6	突合せ溶接部の引張力（胴の部分径D _{on} において）	N		We7	突合せ溶接部の引張力（胴の部分径d _w において）	N		We8	突合せ溶接部の引張力（強め板の部分径D _{on} において）	N		We9	突合せ溶接部の引張力（強め板の部分径d _w において）	N		We10	管台のせん断力	N		We11	すみ肉溶接部のせん断力（管台取付部の胴の部分径d _w より外側）	N		Webp1	予想される破断箇所の強さ	N		Webp2	予想される破断箇所の強さ	N		Webp3	予想される破断箇所の強さ	N		Webp4	予想される破断箇所の強さ	N		Webp5	予想される破断箇所の強さ	N		Webp6	予想される破断箇所の強さ	N	<p>・記号の説明については、プラントユニークであるため、差分の抽出は実施しない。</p>
設計・建設規格の記号	計算書の表示	表示内容	単位																																																																																																																																
	Sw1	すみ肉溶接部の許容せん断応力	MPa																																																																																																																																
	Sw2	突合せ溶接部の許容せん断応力	MPa																																																																																																																																
	Sw3	突合せ溶接部の許容引張応力	MPa																																																																																																																																
	Sw4	管台壁の許容せん断応力	MPa																																																																																																																																
	te	強め板の最小厚さ	mm																																																																																																																																
tn	tn	管台の最小厚さ	mm																																																																																																																																
	tno	管台の呼び厚さ	mm																																																																																																																																
tnr	tnr	管台の計算上必要な厚さ	mm																																																																																																																																
ts	ts	胴の最小厚さ	mm																																																																																																																																
tsr	tsr	胴の継目がない場合の計算上必要な厚さ	mm																																																																																																																																
	W	溶接部の負うべき荷重	N																																																																																																																																
	W1	$W_1 = (A_2 + A_3 + A_4) \cdot S_s$	N																																																																																																																																
	W2	$W_2 = (d \cdot t_{sr} - A_1) \cdot S_s$ 又は $W_2 = (d_w \cdot t_{sr} - A_1) \cdot S_s$	N																																																																																																																																
	We1	すみ肉溶接部のせん断力（管台取付部：胴の外側）	N																																																																																																																																
	We2	すみ肉溶接部のせん断力（管台取付部：胴の内側）	N																																																																																																																																
	We3	すみ肉溶接部のせん断力（強め板取付部）	N																																																																																																																																
	We4	突合せ溶接部のせん断力（胴と強め板との突合せ部）	N																																																																																																																																
	We5	突合せ溶接部のせん断力（管台取付部）	N																																																																																																																																
	We5D	突合せ溶接部のせん断力（管台取付部）	N																																																																																																																																
	We6	突合せ溶接部の引張力（胴の部分径D _{on} において）	N																																																																																																																																
	We7	突合せ溶接部の引張力（胴の部分径d _w において）	N																																																																																																																																
	We8	突合せ溶接部の引張力（強め板の部分径D _{on} において）	N																																																																																																																																
	We9	突合せ溶接部の引張力（強め板の部分径d _w において）	N																																																																																																																																
	We10	管台のせん断力	N																																																																																																																																
	We11	すみ肉溶接部のせん断力（管台取付部の胴の部分径d _w より外側）	N																																																																																																																																
	Webp1	予想される破断箇所の強さ	N																																																																																																																																
	Webp2	予想される破断箇所の強さ	N																																																																																																																																
	Webp3	予想される破断箇所の強さ	N																																																																																																																																
	Webp4	予想される破断箇所の強さ	N																																																																																																																																
	Webp5	予想される破断箇所の強さ	N																																																																																																																																
	Webp6	予想される破断箇所の強さ	N																																																																																																																																

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）

黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機				備考
		設計・建設規格の記号	計算書の表示	表示内容	単位	<p>・記号の説明については、プラントユニークであるため、差分の抽出は実施しない。</p>
			WELD-	管台溶接形式（図2-1～図2-10を参照）	—	
			X	補強の有効範囲（胴の面に沿った方向）	mm	
			X ₁	補強の有効範囲	mm	
			X ₂	補強の有効範囲	mm	
			Y ₁	補強の有効範囲（胴より外側）	mm	
			Y ₂	補強の有効範囲（胴より内側）	mm	
			η	穴が長手継手又は胴との接合部の周継手を通る場合はその継手の効率。その他の場合は1.00	—	
			π	円周率	—	
			応力除去の有無			
			有り	同左	—	
			無し	同左	—	
		注記 *1：設計・建設規格 図PVD-4112-3による。				

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>(2) 胴の補強計算</p> <p>a. 管台の形式</p> <p>図2-1～図2-10に管台の形式、補強に有効な面積、補強に必要な面積、破断形式等を示す。</p> <p>ただし、すみ肉溶接部分の破断箇所については、両方の脚長が等しいため、片側の脚長の破断形式のみを図示する。</p> <p>b. 穴の補強</p> <p>(a) 補強に必要な面積</p> <p>設計・建設規格 PVD-3010（設計・建設規格 PVC-3161.3 準用）を適用する。</p> <p>イ. 円筒形の胴の場合</p> <p>(イ) 管台の一部が胴の部分となっていない場合及びWELD-8, 22の場合</p> $A_r = d \cdot t_{sr} \cdot F$ <p>(ロ) 管台の一部が胴の部分となっている場合</p> $A_r = d \cdot t_{sr} \cdot F + 2 \cdot (1 - S_n / S_s) \cdot t_{sr} \cdot F \cdot t_n$ <p>($S_n / S_s > 1$ の場合は $S_n / S_s = 1$ とする。 以下、胴の場合において同じ)</p> <p>(b) 補強に有効な範囲</p> <p>設計・建設規格 PVD-3010（設計・建設規格 PVC-3161.1 準用）を適用する。</p> $X = X_1 + X_2$ $X_1 = X_2 = \text{Max} (d, d/2 + t_s + t_n)$ $Y_1 = \text{Min} (2.5 \cdot t_s, 2.5 \cdot t_n + t_e)$ $Y_2 = \text{Min} (2.5 \cdot t_s, 2.5 \cdot t_n)$ <p>ただし、構造上計算した有効範囲が取れない場合は、構造上取り得る範囲とする。また、強め板がない場合には $t_e = 0$ とする。</p> <p>(c) 補強に有効な面積</p> <p>設計・建設規格 PVD-3010 及び PVD-3110（設計・建設規格 PVC-3161.2 準用）を適用する。</p>	<p>・対象設備の差異 (女川2号機のクラス3容器には鏡板を用いないため記載しない。)</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>イ. 胴の部分の補強に有効な面積</p> <p>(イ) 管台の一部が胴の部分となっていない場合及びWELD-8, 22の場合</p> $A_1 = (\eta \cdot t_s - F \cdot t_{sr}) \cdot (X - d)$ <p>(ロ) 管台の一部が胴の部分となっている場合</p> $A_1 = (\eta \cdot t_s - F \cdot t_{sr}) \cdot (X - d) - (1 - S_n/S_s) \cdot (\eta \cdot t_s - F \cdot t_{sr}) \cdot 2 \cdot t_n$ <p>ロ. 管台の部分の補強に有効な面積</p> <p>(イ) 管台が胴の内側に突出していない場合及びWELD-8, 22の場合</p> $A_2 = 2 \cdot (t_n - t_{nr}) \cdot Y_1 \cdot S_n/S_s$ <p>(ロ) 管台が胴の内側に突出している場合</p> $A_2 = 2 \cdot \{(t_n - t_{nr}) \cdot Y_1 + t_n \cdot Y_2\} \cdot S_n/S_s$ <p>ただし、</p> $t_{nr} = \frac{P \cdot (D_{on} - 2 \cdot t_n)}{2 \cdot S_n - 1.2 \cdot P}$ <p>ハ. すみ肉溶接の部分の補強に有効な面積</p> $A_3 = L_1 \cdot L_1 + L_2 \cdot L_2 + L_3 \cdot L_3$ <p>ただし、補強の有効範囲にないすみ肉溶接の部分は除く。</p> <p>ニ. 強め板の部分の補強に有効な面積</p> $A_4 = \{ \text{Min}(B_e, X) - D_{on} \} \cdot t_e \cdot S_e/S_s$ <p>($S_e/S_s > 1$の場合は$S_e/S_s = 1$とする。以下胴の場合において同じ)</p> <p>ホ. 補強に有効な総面積</p> $A_0 = A_1 + A_2 + A_3 + A_4$ <p>(d) 補強に有効な範囲$X_1 \neq X_2$の場合の補強に有効な面積の確認</p> <p>設計・建設規格 PVD-3010 及び PVD-3110（設計・建設規格 PVC-3165 準用）を適用する。</p> <p>補強に必要な面積の2分の1以上の補強に有効な面積は穴の中心線の両側にある必要がある。</p> <p>ただし、補強に有効な範囲$X_1 = X_2$の場合は上記条件を満足することが明らかであり、以下の計算は行わな</p>	<p>・対象設備の差異 (女川2号機のクラス3容器には鏡板を用いないため記載しない。)</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>い。</p> <p>イ. 補強に必要な面積の2分の1 $A_{rD} = A_r / 2$</p> <p>ロ. X_1又はX_2のいずれか小さい方の断面における補強に有効な面積</p> <p>(イ) 胴の部分の補強に有効な面積 管台の一部分が胴の部分となっていない場合及びWELD-8, 22の場合 $A_{1D} = (\eta \cdot t_s - F \cdot t_{sr}) \cdot \{ \text{Min}(X_1, X_2) - d/2 \}$ 管台の一部分が胴の部分となっている場合 $A_{1D} = (\eta \cdot t_s - F \cdot t_{sr}) \cdot \{ \text{Min}(X_1, X_2) - d/2 \} - (1 - S_n/S_s) \cdot (\eta \cdot t_s - F \cdot t_{sr}) \cdot t_n$</p> <p>(ロ) 管台の部分の補強に有効な面積 $A_{2D} = A_2 / 2$</p> <p>(ハ) すみ肉溶接の部分の補強に有効な面積 $A_{3D} = A_3 / 2$</p> <p>(ニ) 強め板の部分の補強に有効な面積 $A_{4D} = A_4 / 2$</p> <p>(ホ) 補強に有効な総面積 $A_{0D} = A_{1D} + A_{2D} + A_{3D} + A_{4D}$</p>	<p>・対象設備の差異 （女川2号機のクラス3容器には鏡板を用いないため記載しない。）</p> <p>・対象設備の差異 （女川2号機は大きい穴の補強計算が必要となる設備がないため記載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>c. 溶接部の強度</p> <p>設計・建設規格 PVD-3010（設計・建設規格 PVC-3168及びPVC-3169 準用）を適用する。</p> <p>(a) 溶接部の負うべき荷重</p> <p>次の2つの計算式（W_1及びW_2）により求めた荷重のうちいずれか小さい方</p> $W_1 = (A_2 + A_3 + A_4) \cdot S_s$ <p>管台の一部分が胴の部分となっていない場合及びWELD-8, 22の場合</p> $W_2 = (d \cdot t_{sr} - A_1) \cdot S_s$ <p>管台の一部分が胴の部分となっている場合</p> $W_2 = (d_w \cdot t_{sr} - A_1) \cdot S_s$ <p>よって、$W = \text{Min}(W_1, W_2)$</p> <p>ここで、$W < 0$の場合は、溶接部の強度計算は必要ない。</p> <p>一方、$W \geq 0$の場合は以下の溶接部の強度計算を行う。</p> <p>(b) 溶接部の単位面積当たりの強さ</p> $S_{w1} = S_s \cdot F_1$ $S_{w2} = S_s \cdot F_2$ $S_{w3} = S_s \cdot F_3$ $S_{w4} = \text{Min}(S_s, S_n) \cdot F_4$ <p>(c) 継手部の強さ</p> $W_{e1} = \pi \cdot D_{on} \cdot L_1 \cdot S_{w1} / 2$ $W_{e2} = \pi \cdot D_{on} \cdot L_3 \cdot S_{w1} / 2$ <p>……………（WELD-17以外の場合）</p> $W_{e2} = \pi \cdot (d - 2 \cdot L_2) \cdot L_2 \cdot S_{w1} / 2$	<p>・対象設備の差異 （女川2号機は大きい穴の補強計算が必要となる設備がないため記載しない。）</p> <p>・構成（章節番号）の差異</p> <p>・対象設備の差異 （女川2号機のクラス3容器には鏡板を用いないため記載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>……………（WELD-17の場合）</p> $W_{e3} = \pi \cdot B_e \cdot L_2 \cdot S_{w1} / 2$ $W_{e4} = \pi \cdot D_{on} \cdot \left(\frac{d_w - D_{on}}{2} \right) \cdot S_{w2} / 2$ $W_{e5} = \pi \cdot \left(\frac{D_{on} + d}{2} \right) \cdot t_n \cdot S_{w2} / 2$ $W_{e6} = \pi \cdot D_{on} \cdot t_s \cdot S_{w3} / 2$ <p>……………（WELD-5, 6, 14以外の場合）</p> $W_{e6} = \pi \cdot D_{on} \cdot L_4 \cdot S_{w3} / 2$ <p>……………（WELD-5, 6, 14の場合）</p> $W_{e7} = \pi \cdot d_w \cdot t_s \cdot S_{w3} / 2$ <p>……………（WELD-6以外の場合）</p> $W_{e7} = \pi \cdot d_w \cdot L_4 \cdot S_{w3} / 2$ <p>……………（WELD-6の場合）</p> $W_{e8} = \pi \cdot D_{on} \cdot t_e \cdot S_{w3} / 2$ <p>……………（WELD-14以外の場合）</p> $W_{e8} = \pi \cdot D_{on} \cdot L_5 \cdot S_{w3} / 2$ <p>……………（WELD-14の場合）</p> $W_{e9} = \pi \cdot d_w \cdot t_e \cdot S_{w3} / 2$ $W_{e10} = \pi \cdot \left(\frac{D_{on} + d}{2} \right) \cdot t_n \cdot S_{w4} / 2$ $W_{e11} = \pi \cdot d_w \cdot \left(\frac{D_{on} - d_w}{2} + L_1 \right) \cdot S_{w1} / 2$	<p>・対象設備の差異 （女川2号機のクラス3容器には鏡板を用いないため記載しない。）</p>
		<p>(d) 予想される破断箇所の強さ</p> <p>イ. WELD-1の場合</p> $W_{ebp1} = \pi \cdot (W_{e1}) \cdot (W_{e5}) \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e5}$ $W_{ebp2} = \pi \cdot (W_{e5}) \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e5}$	<p>・対象設備の差異 （女川2号機のクラス3容器には鏡板を用いないため記載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>ロ. WELD-2の場合</p> $W_{ebp1} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e2})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e2}$ $W_{ebp2} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e10})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e10}$ <p>ハ. WELD-3の場合</p> $W_{ebp1} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e6})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e6}$ $W_{ebp2} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e10})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e10}$ $W_{ebp3} = \overbrace{(W_{e7})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e7}$ <p>ニ. WELD-4の場合</p> $W_{ebp1} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e6})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e6}$ $W_{ebp2} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e10})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e10}$ $W_{ebp3} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e7})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e11} + W_{e7}$ <p>ただし、$D_{on} = d_w$の場合は$W_{ebp1} = W_{ebp3}$となるためW_{ebp3}を省略する。</p> <p>ホ. WELD-5の場合</p> $W_{ebp1} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e6})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e6}$ $W_{ebp2} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e10})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e10}$ <p>ヘ. WELD-6の場合</p> $W_{ebp1} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e6} \quad W_{e2})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e6} + W_{e2}$ $W_{ebp2} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e10})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e10}$ $W_{ebp3} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e7})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e7}$ <p>ト. WELD-8の場合</p> $W_{ebp1} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e2})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e2}$ $W_{ebp2} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e10})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e10}$ <p>チ. WELD-9の場合</p> $W_{ebp1} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e6} \quad W_{e2})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e6} + W_{e2}$ $W_{ebp2} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e10})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e10}$ $W_{ebp3} = \overbrace{(W_{e7})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e7}$ <p>リ. WELD-11の場合</p> $W_{ebp1} = \overbrace{(W_{e9} \quad W_{e4} \quad W_{e2})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e9} + W_{e4} + W_{e2}$ $W_{ebp2} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e8} \quad W_{e2})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e8} + W_{e2}$ $W_{ebp3} = \overbrace{(W_{e9} \quad W_{e4} \quad W_{e2})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e9} + W_{e4} + W_{e2}$ $W_{ebp4} = \overbrace{(W_{e3} \quad W_{e4} \quad W_{e10})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e3} + W_{e4} + W_{e10}$ $W_{ebp5} = \overbrace{(W_{e1} \quad W_{e10})} \cdots \cdots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e10}$	<p>・対象設備の差異 （女川2号機のクラス3容器には鏡板を用いないため記載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>ス. WELD-12の場合</p> $W_{ebp1} = \overbrace{(W_{e1} \ W_{e6})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e6}$ $W_{ebp2} = \overbrace{(W_{e3} \ W_{e7})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e3} + W_{e7}$ $W_{ebp3} = \overbrace{(W_{e3} \ W_{e4} \ W_{e6})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e3} + W_{e4} + W_{e6}$ $W_{ebp4} = \overbrace{(W_{e3} \ W_{e4} \ W_{e10})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e3} + W_{e4} + W_{e10}$ $W_{ebp5} = \overbrace{(W_{e1} \ W_{e10})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e10}$ <p>ル. WELD-13の場合</p> $W_{ebp1} = \overbrace{(W_{e1} \ W_{e5})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e5}$ $W_{ebp2} = \overbrace{(W_{e3} \ W_{e4} \ W_{e5})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e3} + W_{e4} + W_{e5}$ <p>ヲ. WELD-14の場合</p> $W_{ebp1} = \overbrace{(W_{e3} \ W_{e6})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e3} + W_{e6}$ $W_{ebp2} = \overbrace{(W_{e1} \ W_{e8} \ W_{e6})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e8} + W_{e6}$ $W_{ebp3} = \overbrace{(W_{e3} \ W_{e10})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e3} + W_{e10}$ $W_{ebp4} = \overbrace{(W_{e1} \ W_{e10})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e10}$ <p>ワ. WELD-15, 16, 22の場合</p> $W_{ebp1} = \overbrace{(W_{e1} \ W_{e8} \ W_{e6})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e8} + W_{e6}$ $W_{ebp2} = \overbrace{(W_{e3} \ W_{e7})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e3} + W_{e7}$ $W_{ebp3} = \overbrace{(W_{e3} \ W_{e4} \ W_{e6})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e3} + W_{e4} + W_{e6}$ $W_{ebp4} = \overbrace{(W_{e3} \ W_{e4} \ W_{e10})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e3} + W_{e4} + W_{e10}$ $W_{ebp5} = \overbrace{(W_{e9} \ W_{e7})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e9} + W_{e7}$ $W_{ebp6} = \overbrace{(W_{e1} \ W_{e10})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e10}$ <p>カ. WELD-17の場合</p> $W_{ebp1} = \overbrace{(W_{e1} \ W_{e2})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e2}$ <p>コ. WELD-18の場合</p> $W_{ebp1} = \overbrace{(W_{e1} \ W_{e6} \ W_{e2})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e6} + W_{e2}$ $W_{ebp2} = \overbrace{(W_{e3} \ W_{e7})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e3} + W_{e7}$ $W_{ebp3} = \overbrace{(W_{e3} \ W_{e4} \ W_{e6} \ W_{e2})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e3} + W_{e4} + W_{e6} + W_{e2}$ $W_{ebp4} = \overbrace{(W_{e3} \ W_{e4} \ W_{e10})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e3} + W_{e4} + W_{e10}$ $W_{ebp5} = \overbrace{(W_{e1} \ W_{e10})} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e10}$	<p>・対象設備の差異 （女川2号機のクラス3容器には鏡板を用いないため記載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>タ. WELD-19, 19' の場合</p> $W_{ebp1} = \underbrace{W_{e1}}_{\text{緑}} \underbrace{W_{e8}}_{\text{赤}} \underbrace{W_{e9}}_{\text{赤}} \underbrace{W_{e2}}_{\text{赤}} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e8} + W_{e9} + W_{e2}$ $W_{ebp2} = \underbrace{W_{e3}}_{\text{赤}} \underbrace{W_{e7}}_{\text{赤}} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e3} + W_{e7}$ $W_{ebp3} = \underbrace{W_{e3}}_{\text{赤}} \underbrace{W_{e4}}_{\text{赤}} \underbrace{W_{e6}}_{\text{赤}} \underbrace{W_{e2}}_{\text{赤}} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e3} + W_{e4} + W_{e6} + W_{e2}$ $W_{ebp4} = \underbrace{W_{e3}}_{\text{赤}} \underbrace{W_{e4}}_{\text{赤}} \underbrace{W_{e10}}_{\text{赤}} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e3} + W_{e4} + W_{e10}$ $W_{ebp5} = \underbrace{W_{e9}}_{\text{赤}} \underbrace{W_{e7}}_{\text{赤}} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e9} + W_{e7}$ $W_{ebp6} = \underbrace{W_{e1}}_{\text{赤}} \underbrace{W_{e10}}_{\text{赤}} \dots \dots \dots \text{を通る強さ} = W_{e1} + W_{e10}$ <p>d. 評価</p> <p>胴の穴の補強は、下記の条件を満足すれば十分である。</p> $A_0 > A_r$ $A_{0D} \geq A_{rD} \quad (\text{ただし, } X_1 \neq X_2 \text{ の場合のみ})$ <p>すべての破断箇所の強さ $\geq W$ (ただし, W が正の場合のみ)</p>	<p>・対象設備の差異 (女川2号機のクラス3容器には鏡板を用いないため記載しない。)</p> <p>・構成の差異</p> <p>・対象設備の差異 (女川2号機は大きい穴の補強計算が必要となる設備がないため記載しない。)</p>

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・対象設備の差異 （女川2号機は2つ以上の穴が接近している設備がないため記載しない。）</p>

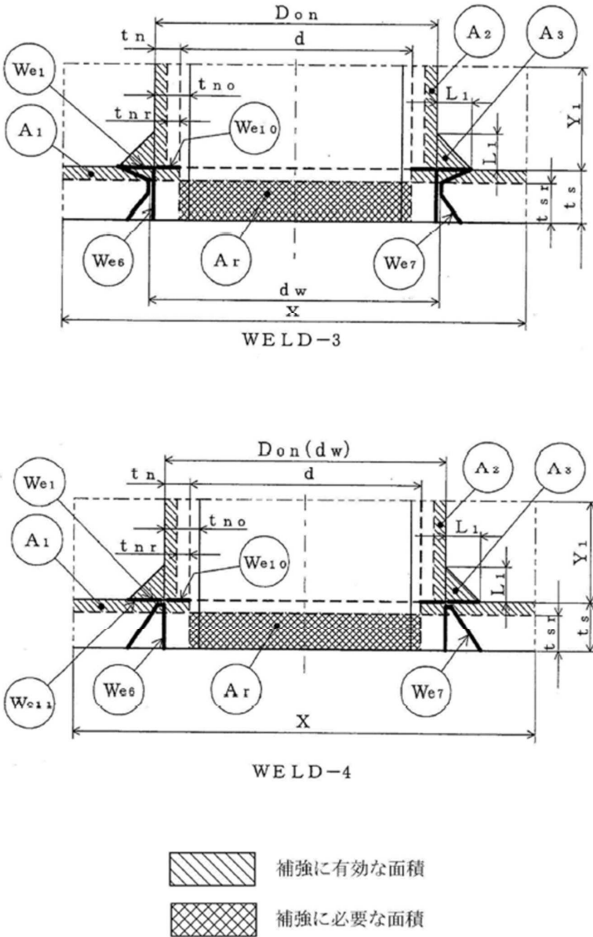
赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>WELD-1</p> <p>WELD-2</p> <p>補強に有効な面積</p> <p>補強に必要な面積</p> <p>図 2-1</p> <p>*：We₁等で示される図中の太線は、予想される破断形式を示す。 （以降、同様）</p>	

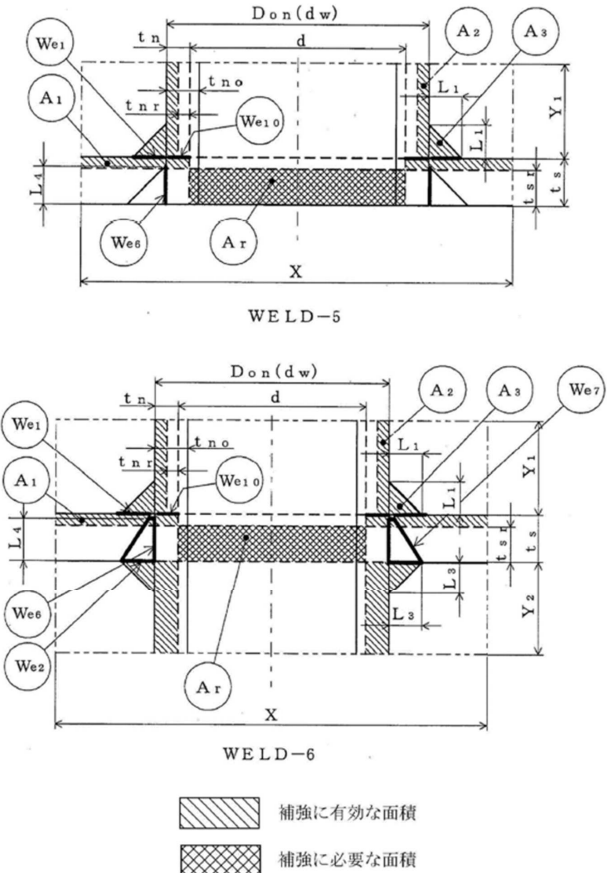
赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		 <p style="text-align: center;">図 2-2</p>	

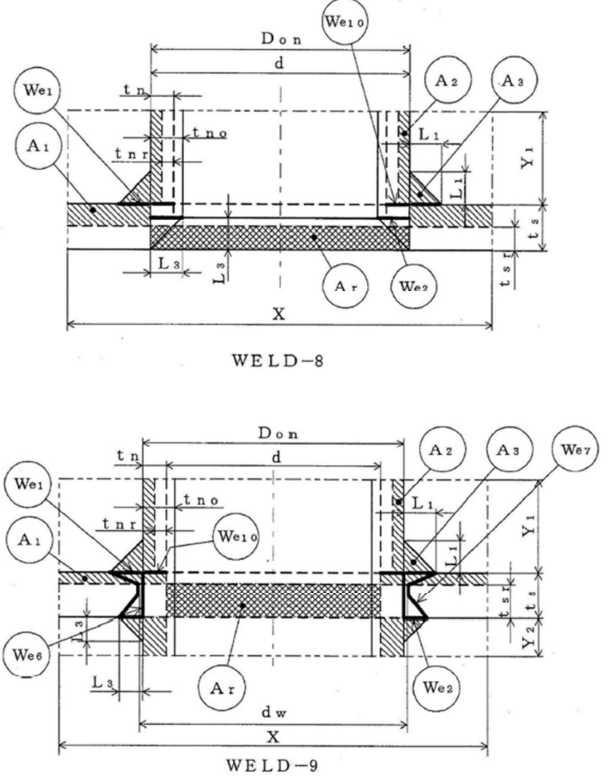
赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 [Yellow Box]：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		 <p>WELD-5</p> <p>WELD-6</p> <p>補強に有効な面積</p> <p>補強に必要な面積</p> <p>図 2-3</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		 <p>補強に有効な面積</p> <p>補強に必要な面積</p> <p>図 2-4</p>	

本資料のうち枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

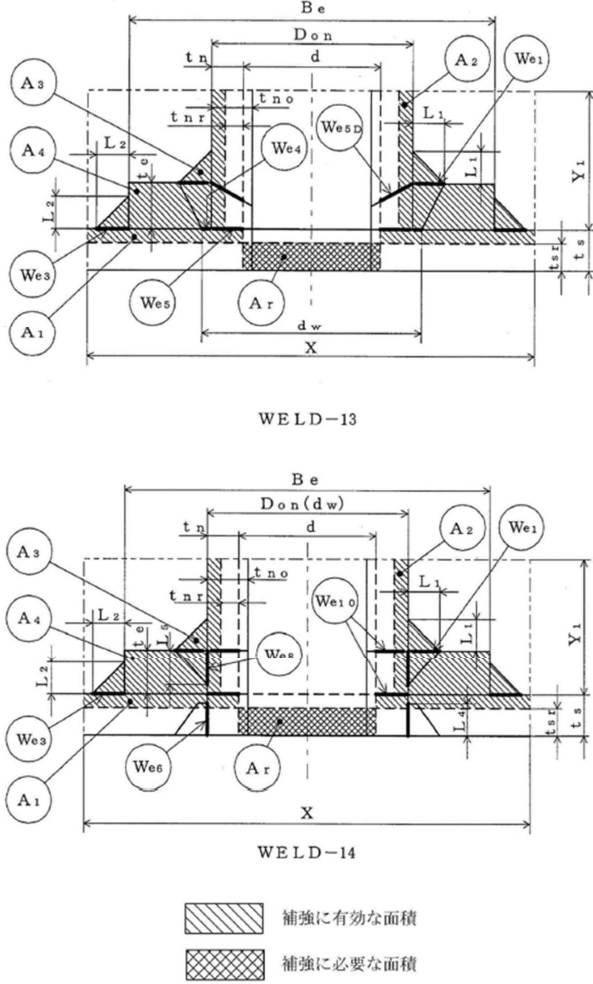
先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>WELD-11</p> <p>WELD-12</p> <p>補強に有効な面積</p> <p>補強に必要な面積</p> <p>図 2-5</p>	

本資料のうち枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

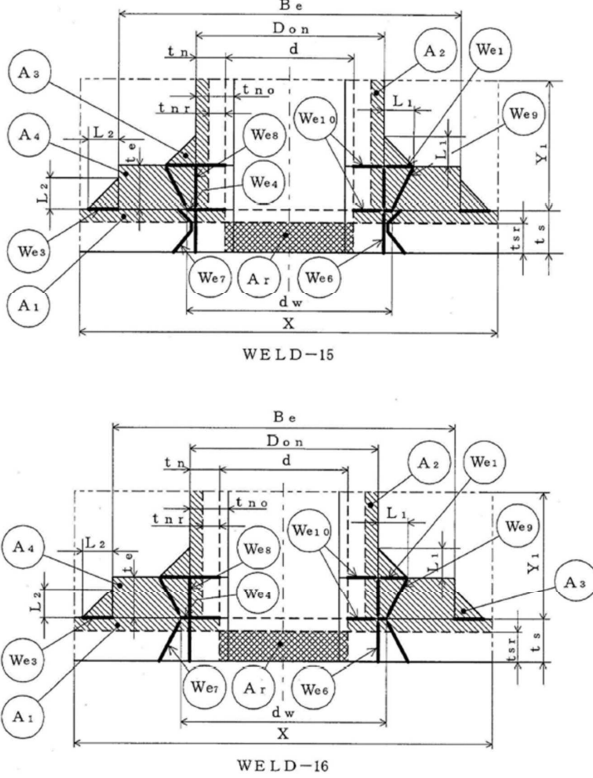
赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		 <p>WELD-13</p> <p>WELD-14</p> <p>補強に有効な面積</p> <p>補強に必要な面積</p> <p>図 2-6</p>	

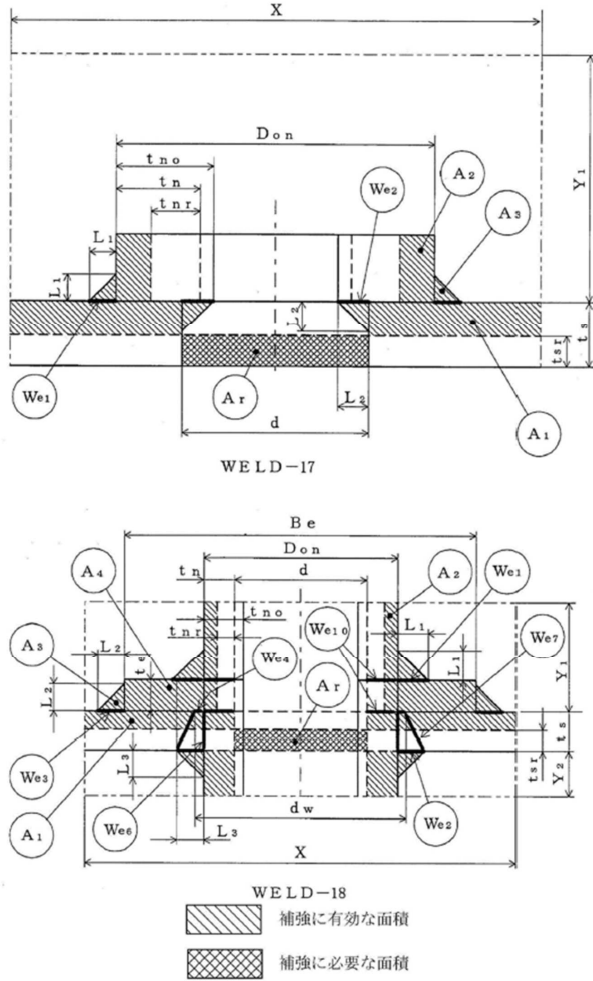
赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 [Yellow Box]：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		 <p>WELD-15</p> <p>WELD-16</p> <p>補強に有効な面積</p> <p>補強に必要な面積</p> <p>図 2-7</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 [Yellow Box]：前回提出時からの変更箇所

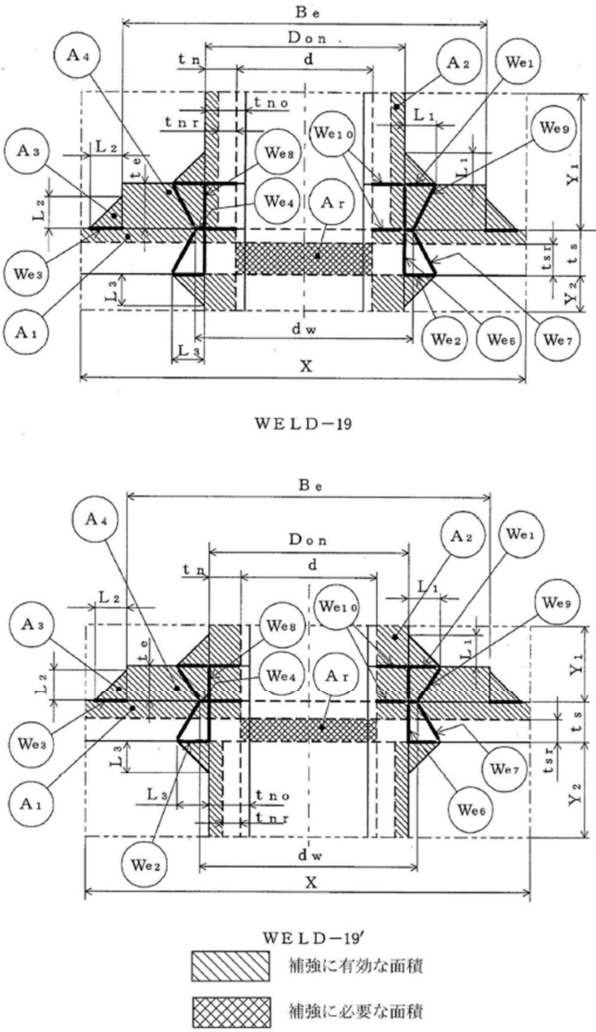
先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		 <p>WELD-17</p> <p>WELD-18</p> <p>補強に有効な面積</p> <p>補強に必要な面積</p> <p>図 2-8</p>	

本資料のうち枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 黄色：前回提出時からの変更箇所

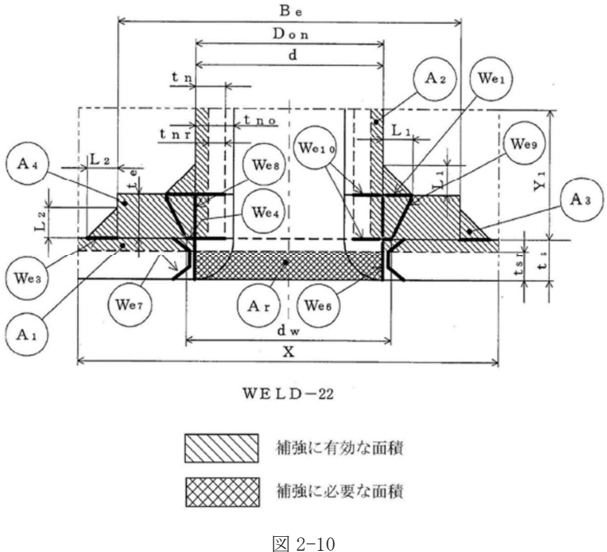
先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			

本資料のうち枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		 <p>WELD-22</p> <p>補強に有効な面積</p> <p>補強に必要な面積</p> <p>図 2-10</p>	

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・対象設備の差異 (女川2号機のクラス3容器には鏡板を用いないため記載しない。)

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・対象設備の差異 （女川2号機のクラス3容器には鏡板を用いないため記載しない。）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・対象設備の差異 （女川2号機のクラス3容器には鏡板を用いないため記載しない。）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■■■■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・対象設備の差異 （女川2号機のクラス3容器には鏡板を用いないため記載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・対象設備の差異 (女川2号機のクラス3容器には鏡板を用いないため記載しない。)

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・対象設備の差異 （女川2号機のクラス3容器には鏡板を用いないため記載しない。）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・対象設備の差異 （女川2号機のクラス3容器には鏡板を用いないため記載しない。）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・対象設備の差異 （女川2号機のクラス3容器には鏡板を用いないため記載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・対象設備の差異 （女川2号機のクラス3容器には鏡板及び平板を用いないため記載しない。）</p>

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■■■■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■■■■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）</p>

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■■■■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）</p>

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）</p>

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■■■■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■■■■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・対象設備の差異 （女川2号機は大きい 穴の補強計算が必要と なる設備がないため記 載しない。）

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・適用規格の差異 （女川2号機のフランジの強度計算が必要となる設備はないため記載しない。）</p>

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・適用規格の差異 （女川2号機のフランジの強度計算が必要となる設備はないため記載しない。）</p>

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・適用規格の差異 （女川2号機のフランジの強度計算が必要となる設備はないため記載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・適用規格の差異 （女川2号機のフランジの強度計算が必要となる設備はないため記載しない。）

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・適用規格の差異 （女川2号機のフランジの強度計算が必要となる設備はないため記載しない。）</p>

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・適用規格の差異 （女川2号機のフランジの強度計算が必要となる設備はないため記載しない。）</p>

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■■■■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・適用規格の差異 （女川2号機のフランジの強度計算が必要となる設備はないため記載しない。）</p>

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■■■■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・適用規格の差異 （女川2号機のフランジの強度計算が必要となる設備はないため記載しない。）</p>

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・適用規格の差異 （女川2号機のフランジの強度計算が必要となる設備はないため記載しない。）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・適用規格の差異 （女川2号機のフランジの強度計算が必要となる設備はないため記載しない。）

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・適用規格の差異 （女川2号機のフランジの強度計算が必要となる設備はないため記載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・適用規格の差異 （女川2号機のフランジの強度計算が必要となる設備はないため記載しない。）</p>

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・適用規格の差異 （女川2号機のフランジの強度計算が必要となる設備はないため記載しない。）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・適用規格の差異 (女川2号機のクラス3容器として、JIS B 8501に基づき評価が必要となる設備はないため記載しない。)

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・適用規格の差異 (女川2号機のクラス3容器として、JIS B 8501に基づき評価が必要となる設備はないため記載しない。)

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・適用規格の差異 （女川2号機のクラス3容器として、JIS B 8501に基づき評価が必要となる設備はないため記載しない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・適用規格の差異 （女川2号機のクラス3容器として、JIS B 8501に基づき評価が必要となる設備はないため記載しない。）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・適用規格の差異 （女川2号機のクラス3容器として、JIS B 8501に基づき評価が必要となる設備はないため記載しない。）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		別紙 クラス3容器の強度計算書のフォーマット	

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		VI-3- *- *- *- * ○○○○○○○○○○○○○の 強度計算書	・構成の差異

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>まえがき</p> <p>本計算書は、添付書類「VI-3-1-4 クラス3機器の強度計算の基本方針」及び「VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法」に基づいて計算を行う。</p> <p>なお、添付書類「VI-3-2-1 強度計算方法の概要」に基づき、火災防護設備用水源タンクについては評価条件整理表は不要とする。</p>	<p>・構成の差異</p>

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）

黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p style="text-align: center;">目次</p> <ul style="list-style-type: none">1. 計算条件.....1.1 計算部位.....1.2 設計条件.....2. 強度計算.....2.1 ○○の計算.....2.2 △△の計算.....2.3 □□の計算.....	

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>1. 計算条件</p> <p>1.1 計算部位</p> <p>概要図に強度計算箇所を示す。</p> <p>図中の番号は次頁以降の計算項目番号を示す。</p> <p>図1-1 概要図</p>	<p>・表現上の差異</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考				
		1.2 設計条件 <table border="1" data-bbox="1352 301 1738 368"> <tr> <td>最高使用圧力 (MPa)</td> <td>静水頭</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度 (°C)</td> <td></td> </tr> </table>	最高使用圧力 (MPa)	静水頭	最高使用温度 (°C)		
最高使用圧力 (MPa)	静水頭						
最高使用温度 (°C)							

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																
		<p>2. 強度計算</p> <p>2.1 開放タンクの胴の厚さの計算 設計・建設規格 PVD-3010（PVC-3920 準用）</p> <table border="1" data-bbox="1335 419 1935 914"><thead><tr><th>鋼板名称</th><th colspan="2">(1) 鋼板</th></tr></thead><tbody><tr><td>材料</td><td></td><td></td></tr><tr><td>水頭</td><td>H</td><td>(m)</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td></td><td>(°C)</td></tr><tr><td>鋼の内径</td><td>D_i</td><td>(m)</td></tr><tr><td>液体の比重</td><td>ρ</td><td></td></tr><tr><td>許容引張応力</td><td>S</td><td>(MPa)</td></tr><tr><td>継手効率</td><td>η</td><td></td></tr><tr><td>継手の種類</td><td></td><td></td></tr><tr><td>放射線検査の有無</td><td></td><td></td></tr><tr><td>必要厚さ</td><td>t_1</td><td>(mm)</td></tr><tr><td>必要厚さ</td><td>t_2</td><td>(mm)</td></tr><tr><td>必要厚さ</td><td>t_3</td><td>(mm)</td></tr><tr><td>t_1, t_2, t_3の大きい値</td><td>t</td><td>(mm)</td></tr><tr><td>呼び厚さ</td><td>t_{s0}</td><td>(mm)</td></tr><tr><td>最小厚さ</td><td>t_s</td><td>(mm)</td></tr></tbody></table> <p>評価：$t_s \geq t$、よって十分である。</p>	鋼板名称	(1) 鋼板		材料			水頭	H	(m)	最高使用温度		(°C)	鋼の内径	D_i	(m)	液体の比重	ρ		許容引張応力	S	(MPa)	継手効率	η		継手の種類			放射線検査の有無			必要厚さ	t_1	(mm)	必要厚さ	t_2	(mm)	必要厚さ	t_3	(mm)	t_1, t_2, t_3 の大きい値	t	(mm)	呼び厚さ	t_{s0}	(mm)	最小厚さ	t_s	(mm)	<p>・表現上の差異 (PVD-3110の適用については、クラス3容器の強度計算方法2.1共通記号の章で説明しているため記載しない。)</p>
鋼板名称	(1) 鋼板																																																		
材料																																																			
水頭	H	(m)																																																	
最高使用温度		(°C)																																																	
鋼の内径	D_i	(m)																																																	
液体の比重	ρ																																																		
許容引張応力	S	(MPa)																																																	
継手効率	η																																																		
継手の種類																																																			
放射線検査の有無																																																			
必要厚さ	t_1	(mm)																																																	
必要厚さ	t_2	(mm)																																																	
必要厚さ	t_3	(mm)																																																	
t_1, t_2, t_3 の大きい値	t	(mm)																																																	
呼び厚さ	t_{s0}	(mm)																																																	
最小厚さ	t_s	(mm)																																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																												
		2.2 開放タンクの平板の厚さの計算 設計・建設規格 PVD-3310 取付け方法及び穴の有無 <table border="1" data-bbox="1326 354 1935 676"> <tr><td>平板名称</td><td>(1) ○○マンホール平板</td></tr> <tr><td>平板の取付け方法</td><td>(j)</td></tr> <tr><td>平板の穴の有無</td><td>無し</td></tr> <tr><td>溶接部の寸法</td><td>t_{w1} (mm)</td></tr> <tr><td>溶接部の寸法</td><td>t_{w2} (mm)</td></tr> <tr><td>胴又は管の計算上必要な厚さ</td><td>t_{sr} (mm)</td></tr> <tr><td>胴又は管の最小厚さ</td><td>t_s (mm)</td></tr> <tr><td></td><td>$t_{w1} + t_{w2}$ (mm)</td></tr> <tr><td></td><td>$2 \cdot t_s$ (mm)</td></tr> <tr><td></td><td>$1.25 \cdot t_{sr}$ (mm)</td></tr> <tr><td colspan="2">評価：$t_{w1} + t_{w2} \geq 2 \cdot t_s$, $t_{w1} \geq t_s$, $t_s \geq 1.25 \cdot t_{sr}$よって十分である。</td></tr> </table> 設計・建設規格 PVD-3310 平板の厚さ <table border="1" data-bbox="1326 794 1935 1187"> <tr><td>平板名称</td><td>(1) ○○マンホール平板</td></tr> <tr><td>材料</td><td></td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>P (MPa)</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>(°C)</td></tr> <tr><td>許容引張応力</td><td>S (MPa)</td></tr> <tr><td>取付け方法による係数</td><td>K</td></tr> <tr><td>平板の径</td><td>d (mm)</td></tr> <tr><td>必要厚さ</td><td>t (mm)</td></tr> <tr><td>呼び厚さ</td><td>t_{po} (mm)</td></tr> <tr><td>最小厚さ</td><td>t_p (mm)</td></tr> <tr><td colspan="2">評価：$t_p \geq t$, よって十分である。</td></tr> </table>	平板名称	(1) ○○マンホール平板	平板の取付け方法	(j)	平板の穴の有無	無し	溶接部の寸法	t_{w1} (mm)	溶接部の寸法	t_{w2} (mm)	胴又は管の計算上必要な厚さ	t_{sr} (mm)	胴又は管の最小厚さ	t_s (mm)		$t_{w1} + t_{w2}$ (mm)		$2 \cdot t_s$ (mm)		$1.25 \cdot t_{sr}$ (mm)	評価： $t_{w1} + t_{w2} \geq 2 \cdot t_s$, $t_{w1} \geq t_s$, $t_s \geq 1.25 \cdot t_{sr}$ よって十分である。		平板名称	(1) ○○マンホール平板	材料		最高使用圧力	P (MPa)	最高使用温度	(°C)	許容引張応力	S (MPa)	取付け方法による係数	K	平板の径	d (mm)	必要厚さ	t (mm)	呼び厚さ	t_{po} (mm)	最小厚さ	t_p (mm)	評価： $t_p \geq t$, よって十分である。		・適用する規格番号の 差異（女川2号機の開 放タンクで平板の厚さ の計算が必要となるた め追加する。）
平板名称	(1) ○○マンホール平板																																														
平板の取付け方法	(j)																																														
平板の穴の有無	無し																																														
溶接部の寸法	t_{w1} (mm)																																														
溶接部の寸法	t_{w2} (mm)																																														
胴又は管の計算上必要な厚さ	t_{sr} (mm)																																														
胴又は管の最小厚さ	t_s (mm)																																														
	$t_{w1} + t_{w2}$ (mm)																																														
	$2 \cdot t_s$ (mm)																																														
	$1.25 \cdot t_{sr}$ (mm)																																														
評価： $t_{w1} + t_{w2} \geq 2 \cdot t_s$, $t_{w1} \geq t_s$, $t_s \geq 1.25 \cdot t_{sr}$ よって十分である。																																															
平板名称	(1) ○○マンホール平板																																														
材料																																															
最高使用圧力	P (MPa)																																														
最高使用温度	(°C)																																														
許容引張応力	S (MPa)																																														
取付け方法による係数	K																																														
平板の径	d (mm)																																														
必要厚さ	t (mm)																																														
呼び厚さ	t_{po} (mm)																																														
最小厚さ	t_p (mm)																																														
評価： $t_p \geq t$, よって十分である。																																															

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																		
		<p>2.3 開放タンクの底板の厚さの計算</p> <p>(1) 設計・建設規格 PVD-3010(PVC-3960 準用) 底板の形：平板</p> <p>(2) 設計・建設規格 PVD-3010(PVC-3970 準用)</p> <table border="1" data-bbox="1379 528 1935 707"><thead><tr><th colspan="2">底板名称</th><th>(1) 底板</th></tr></thead><tbody><tr><td colspan="2">材料</td><td></td></tr><tr><td>必要厚さ</td><td>t (mm)</td><td></td></tr><tr><td>呼び厚さ</td><td>t_{bo} (mm)</td><td></td></tr><tr><td>最小厚さ</td><td>t_b (mm)</td><td></td></tr><tr><td colspan="3">評価：t_b ≥ t, よって十分である。</td></tr></tbody></table>	底板名称		(1) 底板	材料			必要厚さ	t (mm)		呼び厚さ	t _{bo} (mm)		最小厚さ	t _b (mm)		評価：t _b ≥ t, よって十分である。			<p>・構成及び表現上の差異</p>
底板名称		(1) 底板																			
材料																					
必要厚さ	t (mm)																				
呼び厚さ	t _{bo} (mm)																				
最小厚さ	t _b (mm)																				
評価：t _b ≥ t, よって十分である。																					

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																
		<p>2.4 開放タンクの管台の厚さの計算 設計・建設規格 PVD-3010（PVC-3980 準用）</p> <table border="1" data-bbox="1335 389 1935 874"><tr><td>管台名称</td><td>(1) ○○</td><td>マンホール</td></tr><tr><td>材料</td><td></td><td></td></tr><tr><td>水頭</td><td>H</td><td>(m)</td></tr><tr><td>最高使用温度</td><td></td><td>(°C)</td></tr><tr><td>管台の内径</td><td>D_1</td><td>(m)</td></tr><tr><td>液体の比重</td><td>ρ</td><td></td></tr><tr><td>許容引張応力</td><td>S</td><td>(MPa)</td></tr><tr><td>継手効率</td><td>η</td><td></td></tr><tr><td>継手の種類</td><td></td><td></td></tr><tr><td>放射線検査の有無</td><td></td><td></td></tr><tr><td>必要厚さ</td><td>t_1</td><td>(mm)</td></tr><tr><td>必要厚さ</td><td>t_2</td><td>(mm)</td></tr><tr><td>t_1, t_2の大きい値</td><td>t</td><td>(mm)</td></tr><tr><td>呼び厚さ</td><td>t_{no}</td><td>(mm)</td></tr><tr><td>最小厚さ</td><td>t_n</td><td>(mm)</td></tr><tr><td colspan="3">評価：$t_n \geq t$、よって十分である。</td></tr></table>	管台名称	(1) ○○	マンホール	材料			水頭	H	(m)	最高使用温度		(°C)	管台の内径	D_1	(m)	液体の比重	ρ		許容引張応力	S	(MPa)	継手効率	η		継手の種類			放射線検査の有無			必要厚さ	t_1	(mm)	必要厚さ	t_2	(mm)	t_1, t_2 の大きい値	t	(mm)	呼び厚さ	t_{no}	(mm)	最小厚さ	t_n	(mm)	評価： $t_n \geq t$ 、よって十分である。			<p>・構成及び表現上の差異（PVD-3110の適用については強度計算方法2.1 共通記号の章で説明しているため記載しない。）</p> <p>・記載の適正化</p>
管台名称	(1) ○○	マンホール																																																	
材料																																																			
水頭	H	(m)																																																	
最高使用温度		(°C)																																																	
管台の内径	D_1	(m)																																																	
液体の比重	ρ																																																		
許容引張応力	S	(MPa)																																																	
継手効率	η																																																		
継手の種類																																																			
放射線検査の有無																																																			
必要厚さ	t_1	(mm)																																																	
必要厚さ	t_2	(mm)																																																	
t_1, t_2 の大きい値	t	(mm)																																																	
呼び厚さ	t_{no}	(mm)																																																	
最小厚さ	t_n	(mm)																																																	
評価： $t_n \geq t$ 、よって十分である。																																																			

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考						
		<p>2.5 開放タンクの補強を要しない穴の最大径の計算 設計・建設規格 PVD-3511, PVD-3512</p> <table border="1" data-bbox="1335 360 1935 531"><thead><tr><th data-bbox="1335 360 1641 389">銅板名称</th><th data-bbox="1646 360 1935 389">(1) 銅板</th></tr></thead><tbody><tr><td data-bbox="1335 392 1641 421">補強の計算を要する 85mm を超える穴の</td><td data-bbox="1646 392 1935 421">○マンホール (2.6 (1))</td></tr><tr><td data-bbox="1335 424 1641 453">名称</td><td data-bbox="1646 424 1935 453">△ノズル (2.6 (2))</td></tr></tbody></table>	銅板名称	(1) 銅板	補強の計算を要する 85mm を超える穴の	○マンホール (2.6 (1))	名称	△ノズル (2.6 (2))	<p>・構成及び表現上の差異</p>
銅板名称	(1) 銅板								
補強の計算を要する 85mm を超える穴の	○マンホール (2.6 (1))								
名称	△ノズル (2.6 (2))								

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																																																																											
		<p>2.6 開放タンクの穴の補強計算 設計・建設規格 PVD-3010, PVD-3510 (PVC-3160, PVC-3950 準用)</p> <p style="text-align: right;">参照附图 WELD-11</p>	<p>・構成及び表現上の差異（女川2号機では、PVD-3110の適用については強度計算方法2.1共通記号の章で説明しているため記載しない。）</p>																																																																																																											
		<table border="1"> <tr> <td>管台名称</td> <td>(1) ○C</td> <td>マンホール</td> </tr> <tr> <td>胴板材料</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>管台材料</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>強め板材料</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>P</td> <td>(MPa)</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> <td>(℃)</td> </tr> <tr> <td>胴板の許容引張応力</td> <td>S_w</td> <td>(MPa)</td> </tr> <tr> <td>管台の許容引張応力</td> <td>S_w</td> <td>(MPa)</td> </tr> <tr> <td>強め板の許容引張応力</td> <td>S_w</td> <td>(MPa)</td> </tr> <tr> <td>穴の径</td> <td>d</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>管台が取付く穴の径</td> <td>d_w</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>胴板の最小厚さ</td> <td>t_w</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>管台の最小厚さ</td> <td>t_w</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>胴板の継手効率</td> <td>η</td> <td></td> </tr> <tr> <td>係数</td> <td>F</td> <td></td> </tr> <tr> <td>胴の内径</td> <td>D_i</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>胴板の計算上必要な厚さ</td> <td>t_{wr}</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>管台の計算上必要な厚さ</td> <td>t_{wr}</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>穴の補強に必要な面積</td> <td>A_r</td> <td>(mm²)</td> </tr> <tr> <td>補強の有効範囲</td> <td>X_1</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>補強の有効範囲</td> <td>X_2</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>補強の有効範囲</td> <td>X</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>補強の有効範囲</td> <td>Y_1</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>補強の有効範囲</td> <td>Y_2</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>強め板の最小厚さ</td> <td>t_w</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>強め板の外径</td> <td>D_{ex}</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>管台の外径</td> <td>D_{ex}</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>溶接寸法</td> <td>L_1</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>溶接寸法</td> <td>L_2</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>溶接寸法</td> <td>L_3</td> <td>(mm)</td> </tr> <tr> <td>胴板の有効補強面積</td> <td>A_1</td> <td>(mm²)</td> </tr> <tr> <td>管台の有効補強面積</td> <td>A_2</td> <td>(mm²)</td> </tr> <tr> <td>寸法内溶接部の有効補強面積</td> <td>A_3</td> <td>(mm²)</td> </tr> <tr> <td>強め板の有効補強面積</td> <td>A_4</td> <td>(mm²)</td> </tr> <tr> <td>補強の有効総面積</td> <td>A_5</td> <td>(mm²)</td> </tr> <tr> <td>評価：$A_5 > A_r$、よって十分である。</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	管台名称	(1) ○C	マンホール	胴板材料			管台材料			強め板材料			最高使用圧力	P	(MPa)	最高使用温度		(℃)	胴板の許容引張応力	S_w	(MPa)	管台の許容引張応力	S_w	(MPa)	強め板の許容引張応力	S_w	(MPa)	穴の径	d	(mm)	管台が取付く穴の径	d_w	(mm)	胴板の最小厚さ	t_w	(mm)	管台の最小厚さ	t_w	(mm)	胴板の継手効率	η		係数	F		胴の内径	D_i	(mm)	胴板の計算上必要な厚さ	t_{wr}	(mm)	管台の計算上必要な厚さ	t_{wr}	(mm)	穴の補強に必要な面積	A_r	(mm ²)	補強の有効範囲	X_1	(mm)	補強の有効範囲	X_2	(mm)	補強の有効範囲	X	(mm)	補強の有効範囲	Y_1	(mm)	補強の有効範囲	Y_2	(mm)	強め板の最小厚さ	t_w	(mm)	強め板の外径	D_{ex}	(mm)	管台の外径	D_{ex}	(mm)	溶接寸法	L_1	(mm)	溶接寸法	L_2	(mm)	溶接寸法	L_3	(mm)	胴板の有効補強面積	A_1	(mm ²)	管台の有効補強面積	A_2	(mm ²)	寸法内溶接部の有効補強面積	A_3	(mm ²)	強め板の有効補強面積	A_4	(mm ²)	補強の有効総面積	A_5	(mm ²)	評価： $A_5 > A_r$ 、よって十分である。		
管台名称	(1) ○C	マンホール																																																																																																												
胴板材料																																																																																																														
管台材料																																																																																																														
強め板材料																																																																																																														
最高使用圧力	P	(MPa)																																																																																																												
最高使用温度		(℃)																																																																																																												
胴板の許容引張応力	S_w	(MPa)																																																																																																												
管台の許容引張応力	S_w	(MPa)																																																																																																												
強め板の許容引張応力	S_w	(MPa)																																																																																																												
穴の径	d	(mm)																																																																																																												
管台が取付く穴の径	d_w	(mm)																																																																																																												
胴板の最小厚さ	t_w	(mm)																																																																																																												
管台の最小厚さ	t_w	(mm)																																																																																																												
胴板の継手効率	η																																																																																																													
係数	F																																																																																																													
胴の内径	D_i	(mm)																																																																																																												
胴板の計算上必要な厚さ	t_{wr}	(mm)																																																																																																												
管台の計算上必要な厚さ	t_{wr}	(mm)																																																																																																												
穴の補強に必要な面積	A_r	(mm ²)																																																																																																												
補強の有効範囲	X_1	(mm)																																																																																																												
補強の有効範囲	X_2	(mm)																																																																																																												
補強の有効範囲	X	(mm)																																																																																																												
補強の有効範囲	Y_1	(mm)																																																																																																												
補強の有効範囲	Y_2	(mm)																																																																																																												
強め板の最小厚さ	t_w	(mm)																																																																																																												
強め板の外径	D_{ex}	(mm)																																																																																																												
管台の外径	D_{ex}	(mm)																																																																																																												
溶接寸法	L_1	(mm)																																																																																																												
溶接寸法	L_2	(mm)																																																																																																												
溶接寸法	L_3	(mm)																																																																																																												
胴板の有効補強面積	A_1	(mm ²)																																																																																																												
管台の有効補強面積	A_2	(mm ²)																																																																																																												
寸法内溶接部の有効補強面積	A_3	(mm ²)																																																																																																												
強め板の有効補強面積	A_4	(mm ²)																																																																																																												
補強の有効総面積	A_5	(mm ²)																																																																																																												
評価： $A_5 > A_r$ 、よって十分である。																																																																																																														

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																										
		<table border="1"> <tr> <td>管台名称</td> <td>(1) ○C マンホール</td> </tr> <tr> <td>大きい穴の補強</td> <td></td> </tr> <tr> <td>補強を要する穴の限界径 d_1 (mm)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価：$d \leq d_1$、よって大きい穴の補強計算は必要ない。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溶接部にかかる荷重 W_1 (N)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溶接部にかかる荷重 W_2 (N)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溶接部の負うべき荷重 W (N)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>すみ内溶接の許容せん断応力 S_{w1} (MPa)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>突合せ溶接の許容せん断応力 S_{w2} (MPa)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>突合せ溶接の許容引張応力 S_{w3} (MPa)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>管台壁の許容せん断応力 S_{w4} (MPa)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>応力除去の有無</td> <td></td> </tr> <tr> <td>すみ内溶接の許容せん断応力係数 F_1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>突合せ溶接の許容せん断応力係数 F_2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>突合せ溶接の許容引張応力係数 F_3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>管台壁の許容せん断応力係数 F_4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>すみ内溶接部のせん断力 W_{e1} (N)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>すみ内溶接部のせん断力 W_{e2} (N)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>すみ内溶接部のせん断力 W_{e3} (N)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>突合せ溶接部のせん断力 W_{e4} (N)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>突合せ溶接部の引張力 W_{e8} (N)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>突合せ溶接部の引張力 W_{e9} (N)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>管台のせん断力 W_{e10} (N)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>予想される破断箇所の強さ W_{ebp1} (N)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>予想される破断箇所の強さ W_{ebp2} (N)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>予想される破断箇所の強さ W_{ebp3} (N)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>予想される破断箇所の強さ W_{ebp4} (N)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>予想される破断箇所の強さ W_{ebp5} (N)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価：$W_{ebp1} \geq W$、$W_{ebp2} \geq W$、$W_{ebp3} \geq W$、$W_{ebp4} \geq W$、$W_{ebp5} \geq W$ 以上より十分である。</td> <td></td> </tr> </table>	管台名称	(1) ○C マンホール	大きい穴の補強		補強を要する穴の限界径 d_1 (mm)		評価： $d \leq d_1$ 、よって大きい穴の補強計算は必要ない。		溶接部にかかる荷重 W_1 (N)		溶接部にかかる荷重 W_2 (N)		溶接部の負うべき荷重 W (N)		すみ内溶接の許容せん断応力 S_{w1} (MPa)		突合せ溶接の許容せん断応力 S_{w2} (MPa)		突合せ溶接の許容引張応力 S_{w3} (MPa)		管台壁の許容せん断応力 S_{w4} (MPa)		応力除去の有無		すみ内溶接の許容せん断応力係数 F_1		突合せ溶接の許容せん断応力係数 F_2		突合せ溶接の許容引張応力係数 F_3		管台壁の許容せん断応力係数 F_4		すみ内溶接部のせん断力 W_{e1} (N)		すみ内溶接部のせん断力 W_{e2} (N)		すみ内溶接部のせん断力 W_{e3} (N)		突合せ溶接部のせん断力 W_{e4} (N)		突合せ溶接部の引張力 W_{e8} (N)		突合せ溶接部の引張力 W_{e9} (N)		管台のせん断力 W_{e10} (N)		予想される破断箇所の強さ W_{ebp1} (N)		予想される破断箇所の強さ W_{ebp2} (N)		予想される破断箇所の強さ W_{ebp3} (N)		予想される破断箇所の強さ W_{ebp4} (N)		予想される破断箇所の強さ W_{ebp5} (N)		評価： $W_{ebp1} \geq W$ 、 $W_{ebp2} \geq W$ 、 $W_{ebp3} \geq W$ 、 $W_{ebp4} \geq W$ 、 $W_{ebp5} \geq W$ 以上より十分である。		・表現上の差異
管台名称	(1) ○C マンホール																																																												
大きい穴の補強																																																													
補強を要する穴の限界径 d_1 (mm)																																																													
評価： $d \leq d_1$ 、よって大きい穴の補強計算は必要ない。																																																													
溶接部にかかる荷重 W_1 (N)																																																													
溶接部にかかる荷重 W_2 (N)																																																													
溶接部の負うべき荷重 W (N)																																																													
すみ内溶接の許容せん断応力 S_{w1} (MPa)																																																													
突合せ溶接の許容せん断応力 S_{w2} (MPa)																																																													
突合せ溶接の許容引張応力 S_{w3} (MPa)																																																													
管台壁の許容せん断応力 S_{w4} (MPa)																																																													
応力除去の有無																																																													
すみ内溶接の許容せん断応力係数 F_1																																																													
突合せ溶接の許容せん断応力係数 F_2																																																													
突合せ溶接の許容引張応力係数 F_3																																																													
管台壁の許容せん断応力係数 F_4																																																													
すみ内溶接部のせん断力 W_{e1} (N)																																																													
すみ内溶接部のせん断力 W_{e2} (N)																																																													
すみ内溶接部のせん断力 W_{e3} (N)																																																													
突合せ溶接部のせん断力 W_{e4} (N)																																																													
突合せ溶接部の引張力 W_{e8} (N)																																																													
突合せ溶接部の引張力 W_{e9} (N)																																																													
管台のせん断力 W_{e10} (N)																																																													
予想される破断箇所の強さ W_{ebp1} (N)																																																													
予想される破断箇所の強さ W_{ebp2} (N)																																																													
予想される破断箇所の強さ W_{ebp3} (N)																																																													
予想される破断箇所の強さ W_{ebp4} (N)																																																													
予想される破断箇所の強さ W_{ebp5} (N)																																																													
評価： $W_{ebp1} \geq W$ 、 $W_{ebp2} \geq W$ 、 $W_{ebp3} \geq W$ 、 $W_{ebp4} \geq W$ 、 $W_{ebp5} \geq W$ 以上より十分である。																																																													

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・適用規格及び表現上の差異（女川2号機はJIS B 8501に基づき評価が必要となる設備はないため記載しない。）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・適用規格及び表現上の差異（女川2号機はJIS B 8501に基づき評価が必要となる設備はないため記載しない。）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0035_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-6 クラス3容器の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/10/9版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・適用規格及び表現上の差異（女川2号機はJIS B 8501に基づき評価が必要となる設備はないため記載しない。）